

ISBN 978-4-903875-23-1

Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL) Series 20

ユーラシア諸言語の多様性と動態—20号記念号—

ユーラシア言語研究コンソーシアム 2018年3月発行

Diversity and Dynamics of Eurasian Languages: The 20th Commemorative Volume

The Consortium for the Studies of Eurasian Languages

ストックホルム民族学博物館所蔵ウイグル文

『入阿毘達磨論』注釋書斷片

The Uighur version of the commentary on *Abhidharmaparakaraṇa-śāstra* preserved at the Museum of Ethnography in Stockholm

庄垣内正弘・菅原睦・大崎紀子・Abdurishid Yakup・藤代節

SHŌGAITO, Masahiro, Mutsumi SUGAHARA, Noriko OHSAKI,

Abdurishid YAKUP, and Setsu FUJISHIRO

## ストックホルム民族学博物館所蔵ウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書斷片

庄垣内正弘<sup>1</sup>・菅原睦・大崎紀子・Abdurishid Yakup・藤代節

キーワード：ウイグル佛典 アビダルマ論書 入阿毘達磨論 注釋書

### 1. 解題

『入阿毘達磨論』のウイグル語譯としてまとめたものは現在のところ知られていないが、冒頭の2行(大正 vol. 28, 980b ll. 26-27)のウイグル語譯6行<sup>2</sup>がベルリン・ブランデンブルグ科学アカデミー所蔵ウイグル文字文献 U5335 に含まれており、近年刊行された Shōgaito et al. (2015) においてテキストが提出されている(pp. 62-63, Text F)。一方その注釋書に屬するものとして、これまでに以下のウイグル文斷片が紹介されている。

---

<sup>1</sup> 庄垣内正弘は、本稿で扱うストックホルム民族学博物館所蔵のウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書斷片4葉について、いずれ出版する豫定でその研究を遅くとも2008年頃にはほぼ完成させていた。その後、2012年春先に不治の病に見舞われ、短い余命のうちに手元の未完成の研究を如何に仕上げるか、その時間の猶豫は如何ばかりか、全く判然としない闘病生活をはじめることになった。庄垣内は、かねてから着手していた Hedin コレクションに含まれるウイグル文『阿毘達磨俱舍論』の研究の完成をまず急いだ。刊行は死後になったが、この研究は *The Uighur Abhidharmakośabhāṣya : preserved at the Museum of Ethnography in Stockholm, Wiesbaden 2014* として出版され、研究を完成する目的を遂げた。庄垣内は、2014年3月23日の逝去直前まで、この他にもベルリン科学アカデミー所蔵のウイグル文字で書かれた小冊子 U5335 の研究などに精力的に取り組んだ(Shōgaito et al. (2015) として刊行)。庄垣内の死後、本稿の4葉の研究が、各文献番号を付した4つのファイルとしてパソコンに遺されていた。ウイグル文の轉寫、和譯、若干の注と大藏經の對應箇所を含むこれらのファイルのうち、3つのファイルの最終更新時が2008年秋であるのに對し、1つのファイルのみ2012年2月末に更新した形跡があり、そこには和譯の途中まで英譯がほどこされていた。おそらく、その翌週に控えた外科的手術を前にして、この4葉の研究に手を加えようとしたのではないと思われる。しかし、ついに後の者に託すことにしたのであるうか、それ以降には更新された形跡はない。本稿は、上記 U5335 の研究で共著者として伴走した4名が、心ならずも未刊行の状態で庄垣内が遺さざるをえなかった4つのファイルを引き継ぎ、解説を補足し、語彙集を作成し、ここに出版するものである。なお、最後に庄垣内が英譯を試みた意志を受け、追って同じ内容を英文でも出版する豫定である。本稿の著者一同、これら4葉の寫眞掲載を許可下さったストックホルム民族学博物館に深い感謝の意をここに表したい。

<sup>2</sup> ウイグル漢字音で表記された4行を伴っている。

## A. ストックホルム民族學博物館所藏の4葉

合計 313 行。スヴェン・ヘディン將來のウイグル文獻中から百濟康義氏により發見され、百濟(1980) でその概要が紹介された。同論文および百濟(1988) であわせて 10 行分の轉寫テキストが提出されたほか、近年では Elmalı (2015) において 1 葉分の轉寫テキストがトルコ語譯とともに發表されている。本稿で全體のテキストと邦譯・語彙を提出する。

## B. 羽田家所藏ウイグル文獻寫眞 3 葉

やはり百濟(1980) で紹介され、同時に 29 行分の轉寫テキストが提出された。同論文によれば合計 112 行。注釋對象：大正 vol. 28, p. 981a l. 3, 982a l. 28, 982b ll. 3-4, 985c ll. 11-12, 14-16.

## C. ロシア科學アカデミー東洋文獻研究所所藏の斷片 11 点

庄垣内(2009) および庄垣内(2008: 135-154)<sup>3</sup> でテキスト・翻譯と注が提出されている<sup>4</sup>。それらによればすべて同一の卷子に屬するという。注釋對象：大正 vol. 28, p. 985a l. 21-986b l. 25; 987b l. 22-988a l. 3.

ストックホルム民族學博物館所藏の A. は、1935.52.21 から 1935.52.24 までの番號が付された 4 葉からなるが、同一の寫本の斷片ではなく、21、22-23、24 の 3 種類の異なる寫本に由来すると考えられている (百濟 1980: 73-74)。以下、百濟論文と寫本畫像とに基づきこれら 4 葉の體裁を示す。

## 1935.52.21

縦 32.9 cm × 横 21.6 cm。草書體ウイグル文字。R17 行 + V18 行。  
裏面上部に漢字で「十一」と書かれている。

## 1935.52.22

縦 14.8 cm × 横 34.7 cm。楷書體ウイグル文字。R44 行 + V44 行。  
裏面左欄外に žiblun baštinqi toquz qirq 「入論卷上 39」と書かれている。

## 1935.52.23

縦 14.6 cm × 横 34.6 cm。楷書體ウイグル文字。R49 行 + V49 行。  
裏面左欄外に ikinti bir ygrmi 「第 2 卷 11」と書かれている。

## 1935.52.24

縦 14.1 cm × 横 34.7 cm。草書體ウイグル文字。R48 行 + V44 行。  
裏面左欄外に漢字で「入論卷中 十一葉」と書かれている。

各面にはウイグル文に混じって「問」、「答」、「論曰」、「解曰」などの漢字が混入されているので、これらは漢語による『入阿毘達磨論』注釋書からウイグ

<sup>3</sup> 初出は庄垣内(2004)。

<sup>4</sup> 後に阿依达尔・米尔卡马力(2015: 18-28) でも取り上げられている。

ル語に翻譯されたものと推定される。21 が『入阿毘達磨論卷上』の冒頭「敬禮一切智 佛日無垢輪」(大正 vol. 28, p. 980b l. 26) の解釋に關する問答の一部であるのに對し、残りの3葉は、同じく卷上からのウイグル語による引用とその注釋から成っている。注釋の對象となっている箇所は『入阿毘達磨論』漢譯中の以下の部分にあたる<sup>5</sup>。

#### 22R-22V

一苾芻律儀。二苾芻尼律儀。三勤策律儀。四正學律儀。五勤策女律儀。六近事男律儀。七近事女律儀。八近住律儀<sup>6</sup>。如是八種唯慾界繫。靜慮律儀。謂色界三摩地隨轉色。此唯色界繫。無漏律儀。謂無漏三摩地隨轉色。此唯不繫。不律儀者。謂諸屠兒 (同 p. 981b ll. 2-8)

#### 24R-24V

修靜慮者有三種異故。(同 p. 982c ll. 13-14)<sup>7</sup>

結有九種。謂愛結恚結慢結無明結見結取結疑結嫉結慳結。

愛結者。謂三界貪。是染著相如融膠漆。故名爲愛。愛卽是結故名愛結。

恚結者。謂五部瞋。於有情等樂爲損苦。不饒益相如辛苦種。

故名爲恚。恚卽是結故名恚結。(同 p. 982c ll. 21-26)

#### 23R-23V

慢結者。謂三界慢。以自方他德類差別。心恃舉相說名爲慢。如傲逸者凌蔑於他。

此復七種。一慢二過慢三慢過慢四我慢五增上慢六卑慢七邪慢。

謂因族姓財位色力持戒多聞工巧等事。若於劣謂。已勝。或於等謂己等。

由此令心高舉名慢。若於等謂己勝。或於勝謂己等。由此令心高舉名過慢。

若於勝謂己勝。由此令心高舉名慢過慢。若於五取蘊執我我所。由此令心高舉名我慢。

若於未證得預流果等殊勝德中謂己證得。由此令心高舉名增上慢。

若於多分族姓等勝中謂己少劣。由此令心高舉名卑慢。若實無德謂己有德。

由此令心高舉名邪慢。如是七慢總名慢結。(同 p. 982c ll. 26-983a l. 10)

これらの他に、22R24 以下では『根本說一切有部毘奈耶頌卷下』に見られる偈文 (大正 vol. 24, p. 646b l. 27-c l. 5) のウイグル語譯が見られる。なお以上の注釋對象箇所と、先に示した他の『入阿毘達磨論』注釋書斷片の注釋對象箇所との

<sup>5</sup> 以下本稿では、漢文原文との對應を考慮して 23 と 24 の順序を入れ替えて扱う。

<sup>6</sup> この部分の引用は現存寫本に含まれていない。

<sup>7</sup> 百濟(1980: 73) はこの部分の對應關係について述べていない。

あいだに重なりは見られない。

以下には注釋の對象である漢文原文に續いてウイグル文と和譯を掲げ、必要な注を施した。

## 2. テキストおよび譯注

[21R]<sup>8</sup>

漢文原文：敬禮一切智佛日無垢輪 (大正 vol. 28, p. 980b l. 26)

- 1) kim ken tınly-lar-qa biltürmiş üçün: anın bilmiş uqmış tep yörüg ol :: bu üç türlüg yörüg-lärkä tükäl-lig
- 2) üçün : buda 仏 tep atandı : 問仏-liry 日天-kä tep tedi : 日天何 ol : 答日天 ärsär yöläşürüg ol 喻 boldači
- 3) 日天 ärsär : tāk kök qalıq-ta yorıdači : 日天 tilgän-i ol : 仏-liry 日天 ärmäz : 問 仏-liry 日天何 ol : 答仏 tegli
- 4) činkertü 智 ol : 問 ol 仏 tegli činkertü 智 qayu ol : 答 alqınču : yanalayu tuymaq-sız 智 ol : 今仏何 [är]sär 日天
- 5) ymä ol oq ol : anı üçün oq samaz üz-ä yörgülük ol : 問日天 ärsär 喻 tep tedi 日天 -ni nägülük 仏-qa yöläşürüg
- 6) qıltı : 答 tıri 仏-niñ ädgü-lär-i yeg ayayuluq ärtüki üz-ä 喻 qılyalı bolmasar ymä : 世-üg yarudtači 光明-luy-lar
- 7) -ta 日天 qamaq-ta yeg ol : 世 täki-lär-kä ayayuluq bolmaq-in tuta : tıri 仏-qa az ülüş täginčä-ky-ä-siñä 喻 qıldı :
- 8) tıri 仏-qa täñ tüz yöläşürüg ärmäz : 問 kkir-siz tep tedi : kkir 何 ol : 答 kkir ärsär 諸 nizvani-lar ol 問 nätäg
- 9) ärsär : niz-vani temädin 何 kkir tedi : kkir ärsär alqu nizvani-lar-niñ yegsig atı ol : anı üçün kkir tepteti : 問
- 10) -siz tegüci 言-tä 何 tep 義 ol : 答 bir ärmäz tep yörüg ol : alqu nizvani-lar-ıy yiti yuqı birlä taryarmış üçün
- 11) kkir-siz tep teti : 問 tilgänlig tedi : tilgän nägü ol : 答日天-niñ 千 yol 光-lar-i nätäg tilgän bolur ärsär : 如是
- 12) ymä tıri 仏-niñ 智-lig taryarmaq-liry ädgüsi bolur tilgän : 問 tilgän tegüci 言 sav-ta nägü tep yörüg ol : 答 tolun
- 13) tägirmi tep yörüg ol : 問 bu 上-ki 二 patak-lar-ıy 四-ünč kä : vibakdi ulatı lig samaz üz-ä yörgülük ol : tedi : vibak
- 14) -dı qač bolur : 答八 bolur : 問何-lar ol 八 : 答 ol : anı üz-ä : aña : andın : anıñ :

<sup>8</sup> [21]のテキスト全体は Elmalı (2015) においてトルコ語譯とともに提出されている。また R13-17 と R17-V5 のテキストはそれぞれ百濟(1988)、百濟(1980)にも見られる。

anta : äväd : 八 vibakdi-lar

15) ärsär muna bular ol : 問 vibakdi tesär nägü bolur : 答 sav ävriš-i temäk bolur : 問 samaz qač türlüg bolur 答六 bolur :

16) 何-lar ol 六 : 答 : niñ samaz : oq samaz : liy samaz : birlä samaz : qarsı samaz : türlüg samaz : ärür : 六 türlüg samaz-lar

17) ärsär muna bular ol : 問 samaz tesär nägü bolur : 答 adir-a qavşuru yörmäk temäk bolur : 問上-ki 二 patak-lar-ıy : kä :

[21V]

十一

1) vibakdi : liy samaz üz-ä yörgülük ol teti : 何二 patak-lar-nı kä : vibakdi : liy samaz üz-ä yörär : 答 ayır-ın

2) ayay-ın yükünürmn tükäl bilgä bilig-kä : 仏-liy 日 tñri-kä kkir-siz arıy tilgän-lig-kä tegüçi bu 二 patak

3) -lar-nı : kä : vibakdi : liy samaz üz-ä yörgülük ol : 問今 munda mitir-a gupte 師 bu 礼 şlok-nı : kä vibak

4) -ti üz-ä yörüp : liy samaz üz-ä yörmäsär nägü mün qaday bolur ärti : 答 sikantile 師 tñri 仏-qa yükünmiš bolmadın :

5) tükäl bilgä bilig-kä yükünmiš bolur ärti : 問 nätäg anı tæg bolur ärti : 答 ..... ayayu ayır-layu yükünür

6) -mn tükäl bilgä bilig-kä tegü bolur ärti : anı tæg temäk üz-ä sikantile 師 tñri 仏-qa yükünmiš bolmatın : tükäl

7) bilgä bilig-kä 礼-miš bolur ärti : 問 liy samaz üz-ä yörüp : kä vibakdi üz-ä yörmäsär nägü mün qaday bolur ärti :

8) sikantile baxşı tñri 仏-qa yükünmiš bolmatın : tñri tñri-si burxan 他 tınly-lar-qa yükünmiš bolur ärti : 問 nätäg :

9) anı tæg bolur ärti : 答 ayayu ayır-layu yükünürmn tükäl bilgä bilig-lig : 仏-liy 日 tñri kkir-siz arıy tilgän-lig

10) tegü bolur ärti : anı tæg temäk üz-ä sikantile baxşı tñri 仏-qa yükünmiš bolmatın : tñri 仏 adın tınly-lar-qa 礼

11) bolur ärti : muna munday-ın mitir-a gupte 師 bu 礼 şlok-nı : kä vibakdi : liy samaz üz-ä yörsär : sikantile 師

12) -niñ tñri 仏-qa yükünmiš-i uqulup : tñri 仏-niñ adın tınly-lar-qa 礼 uqulmaz : anı üçün kä : vibakdi liy samaz

13) üz-ä yörgülük ol : munı üz-ä uqıtur : atı kötrülmiš-niñ taryarmış-lıy ädgü-si-niñ tolu-sın tükäl-in

14) nägü-ni üz-ä uqıdur tesär : kkir-siz arıy tilgän-lig tegüçi sav üz-ä uqıdur : 此中敬礼

munda ayır-in

15) ayamış-in yükünür mn tep tedi ärti : 而 ayır-in ayay-in yükünür kim-kä teptesär :  
qaltı yükünür 仏-liry 日天

16) -kä : 世-üg yarıdtaçı yaruq yaltrıq-lar-ta näj bolmaz ärsär ärdtäçi 日天  
tilgän-indä : ançulayu oq ymä 世-lügdä

17) yeg qarañyuy taryardaçı ärsär : yintäm sarvadyan tükäl bilgä bilig-lig ök ärür :  
yertinçü-lüg 日天 tilgän-i öñi

18) üdrülmäk üz-ä alqu ördüg-lär-tin tidry-lar-tin : bolur ärsär : ödgürtü yarudyalı 如是  
ymä 仏-liry 日天-niñ

21R1)後の衆生に知らせた。それで、了知したという義である。この三種義が圓滿である 2)故に佛と名付けられた。

問：佛なる日天へと言った。日天は何か？

答：日天は喩である。喩となる 3)日天はただ虚空を行ずるもの、日天輪である。佛なる日天ではない。

問：佛なる日天は何か？

答：佛という 4)眞實智である。

問：その佛という眞實智は何か？

答：盡および無生智である。今、佛が何かなら日天も 5)それである。それ故に持業釋で釋すべし。

問：日天は喩と言った。日天をどうして佛への喩と 6)したのか？

答：天佛の善は尊高なることにおいて喩をなすことができなくても世を照らす光明 7)においては日天が最勝である。世間に尊高となることを約して天佛に少分ほどに喩を爲した。8)天佛に等しい喩は無い。

問：無垢と言った。垢は何か？

答：垢は諸煩惱である。

問：9) (そうで) あるならば煩惱と言わずに何故 (?) 垢と言ったのか？

(答)：垢は諸煩惱の異名である。それ故に垢と言った。

問 10)無という言には何という義があるのか。

答：ひとつもないという義である。諸惑 (一切煩惱) を習氣 (薰習) とともに斷った故に 11)無垢と言った。

問：輪もてるものと言った。輪は何か？

答：日天の千道光が輪となるように、このごとく 12)天佛の智斷徳も輪となる。

問：輪という言に何という義があるのか？

答：圓 13)滿という義がある。

問：この上にある二句を第四の與格および有財釋で釋すべし (と) 言った。名詞格は 14)いくつあるのか？

答：八つある。

問：八つとは何か？

答：それは（主格）、それによって（具格）、それへ（與格）、それから（奪格）、その（屬格）、それに（位格）、おお（呼格）。八格は 15)すなわちこれらである。

問：名詞格というのは何か？

答：語の轉變ということである。

問：語釋は何種あるのか？

答：六（種）である。

16)六（種）とは何か？

答：依士釋、持業釋、有財釋、相違釋、隣近釋、帶數釋である。六種の釋は 17)すなわちこれらである。

問：語釋とは何か？

答：離し合して釋すと言うことである。

問：上にある二句を與 21V1)格、有財釋で釋すべし（と）言った。何故（？）二句を與格、有財釋で釋すのか？

答：2)「我は敬重をもって一切智へ禮する、佛なる日天へ無垢の輪もてるものへ」、というこの二句 3)を與格、有財釋で釋すべし。

問：今ここで mitir-a gupte 師がこの歸敬頌（？）を與格 4)で釋して、有財釋で釋さないなら、何の過失となったのか？

答：sikantile 師が天佛に禮したことにならずに 5)一切智へ禮したことになったのである。

問：どうしてそのようになるのか？

答：我は一切智へ敬禮するということになるのであった。そのように言うことによって、sikandile 師は天佛へ禮したことにならず、一切 7)智に禮したことになる。

問：有財釋によって釋して、與格によって釋さないなら何の過失となったのか？

8)（答）：sikandile 師は天佛へ禮したことにならずに天の天なる佛が他の衆生に禮したことになる。

問：どうして 9)そのようになるのか？

答：我一切智もてる、佛なる日天、無垢輪が敬禮する 10)と言うことになるのである。そのごとく言うことによって、sikantile 師が天佛へ禮したことにならずに、天佛が他の衆生へ禮したことに 11)なるのであった。今このようにして mitir-a gupte 師がこの歸敬頌を與格、有財釋で釋すなら、sikantile 師が 12)天佛へ禮したことが顯され、天佛が他の衆生へ禮することは顯されない。それ故に與格、有財釋 13)で釋すべし。これによって顯す。世尊の斷もてる徳の一切を 14)何によって顯すと言えば、無垢輪という言によって顯す。ここにおいて 15)我は敬禮す



ると言ったのである。而して誰へ敬禮すると言うなら、ちょうど佛なる日天へ敬禮する。16)世を照らす光明において、日天輪を越えるものが決してないように、そのようにまた世間において 17)勝なる無冥の斷は唯一切智もてる者である。世間の日天輪が 18)一切の有覆障を遠離することによって了達して照らすことができるように、このごとく佛なる日天の・・

21R2 buda < Skt. *buddha* 「佛」。

21R4 alqinču yanalay tuymaq-siz 智「盡及び無生智」。Cf. öñi kedärip alqinču yanala tuymaq-siz bilgä biliglärig 「盡及び無生智を除いて」(*Tattvārthā* B917)。yanalay は 22V40 にも見られる。

21R5 oq samaz 「持業釋」。六離合釋のひとつで、ここでは「佛が何かであれば日天もまさにそれである」という同格關係を表わす。samaz < Skt. *samasa* 「語釋」、「合成語」。六離合釋については 21R16 の注を参照。

21R6 yeg ayayuluq ärtüki üz-ä 「尊高なることにおいて」。Cf. öz baxšisiniñ anıñ ät'öziniñ yeg ayayuluq ärtüki üzä 「自師其體尊高」(自師の其の體の尊高なることにおいて) (*Tattvārthā* A77)。

21R8 kkir-siz 「無垢」。『實義疏』では k(k)jirsiz は「不染」、「不染汚」の譯語として用いられている。Cf. 庄垣内(2008: 567)。

21R9 nikzkn at 「異名、異目」。nikzkn は『實義疏』に現れる nizkn (< Sogd. 'ny'zkn) のヴァリエントと考えられる。同じ形はロシア所藏の『入阿毘達磨論』注釋書にも見られる: inčip munuñ saqinč bölük akšar tep nikzkn atları ol 「即わち是れの想、章、字という異目なり」(庄垣内 2008: 153)。

21R10 -siz は缺格接尾辭。以下は 8 行目の kkirsiz 「無垢」の -siz の説明になっている。alqu nizvani-lar-ıy yiti yuqi birla taryarmiş üçün 「諸々の煩惱を薰習とともに斷った故に」。Cf. birdämläti taryarmiş üçün alqu nizvanılarıy 「永斷諸惑故」(永く諸惑を斷った故に) (*Tattvārthā* A618); yid yuq 「薰習、習氣」(庄垣内 2008: 209, fn. 631)。

21R12 taryarmaq-lıy ädgü 「斷德」。Cf. tüslügi ärsär bu bolur tört türlüg qaltı bilgä biliglig ädgüsiniñ büdügi. taryarmaqlıy ädgüsiniñ büdügi. asıy qılmaqlıy ädgüsiniñ büdügi. körkädmäklig ädgüsiniñ büdügi ärür 「果もてるもの、これには四種ある。謂わく、智徳の圓滿、斷徳の圓滿、利徳の圓滿、色身徳の圓滿である」(*Tattvārthā* A468-471)。tolun tägirmi 「圓滿」。Cf. tolu tägirmi 「圓滿」(*Tattvārthā* B2121, 2122)。

21R13 patak < Skt. *pādaka* 「句」。vibakdi < Skt. *vibhakti* 「名詞の格」。kä vibakdi 「與格」と lıy samaz 「有財釋」については 21R16 の注を参照。

21R14 以下では、サンスクリットの 8 つの格 (八轉声) のうち對格を除く 7 つがウイグル語で表されている。主格から位格までの 6 つには指示代名詞 ol の各變化形が用いられているが、これらは『實義疏』における次の説明と並行する

(cf. 百濟 1988: 60-63; 庄垣内 2008: 97) : 主格 = aṅ'ilki ol tegüci vibakti 「第一の『それが』という格」(*Tattvārthā* A3991)、具格 = ücünč üzä vibakti 「第三の『によって』格」(A1033<sup>9</sup>)、與格 = tördünč aṅa tegüci kä vibakti 「第四の『それへ』という『へ』格」(A1339)、奪格 = bešinč tñ vibakti 「第五の『から』格」(A3288)、屬格 = altinč niñ vibakti 「第六の『の』格」(A1942<sup>10</sup>)、位格 = yetinč ta vibakti 「第七の『において』格」(A3287)。缺けている對格 anī は主格の次に置かれるべきであるが、後續する具格 anī ücün の前半と同形であるため誤って脱落した可能性が考えられる。最後の呼格のみは指示代名詞を用いずに 'y'd または 'v'd と書かれている<sup>11</sup>。百濟(1988: 63-64) および Elmalı (2015: 236-237) はこれを ayat (前者の轉寫では ayad) と讀み動詞 ay-「言う」の派生名詞とするが、受け入れがたい。ここでは Röhrborn (1996: 226) に従い、『慈恩傳』卷八のウイグル語譯で「呼格」を表わす äv(ä)t ('v)<sup>12</sup> 'hallo, he, heda' と同じ語が用いられていると考えたい。

21R15 sav ävriš-i は「語の轉變」を意味し、上記「(八) 轉聲」の譯語として用いられている。Cf. bešinč sav ävriši tñ vibakti 「第五轉聲の『から』格」(*Tattvārthā* A4572)。『慈恩傳』卷八には änäktäk tilinčäki säkiz sav ävriši<sup>13</sup> 「インドの言語における八轉聲」とある (Röhrborn 1996: 105)。

21R16 以下では、サンスクリットの六種の複合語構成の分類 (六離合釋) が列挙されている。Cf. ärkä tayaqlıy temištäki niñ samaz 「士へ依るものといったものにある-niñ 複合語」=「依士釋」(*Tattvārthā* A564, 4356, 4394)、üküş tavarlıy tegüci liy samaz 「多くの財もてるものという-liy 複合語」=「有財釋」(*Tattvārthā* A1920)。oq samaz 「持業釋」(同格限定複合語) の例は上記 21R5 以外に『實義疏』(*Tattvārthā* A4413, 4418) やロシア所藏『大乘法苑義林章』にも見られる: niñ samaz üzä oq samaz üzä birgäru yörsär bolurl[ar] 「依士釋と、持業釋とのどちらに釋されても可能である」=「依士持業二釋隨應」(庄垣内 2003: 147)。残りの3つについては、百濟(1988: 69-71) において birlä samaz 「相違釋」(並列複合語)、qarsı samaz 「隣近釋」(不變化複合語)、törlüg samaz 「帶數釋」(數詞限定複合語) にそれぞれ比定されている。

21R17 adir-a qavşuru yörmäk 「離し合して釋す」=「(六) 離合釋」。Cf. alti törlüg adira qabşuru yörgülük samazlar 「六種の離れ合して釋する合成語」(*Tattvārthā* A1919,

<sup>9</sup> 訂正後は ücünč <käzigdäki anī üzä tegüci> vibakti 「第三轉にある、『それによって』という格」(庄垣内 2008: 240, fn. 1033-1034)。

<sup>10</sup> 訂正後は altinč anıñ temištäki niñ vibakti 「第六の『そのの』といったものにある『の』格」(庄垣内 2008: 307, fn. 1941-1942)。

<sup>11</sup> 文字 y と v はこの文獻では區別されない。

<sup>12</sup> säkizinič äv(ä)t tegüci sav ävriši ärür (Röhrborn 1996: 105-106) = 「是第八呼聲」(大正 vol. 50, p. 265b l. 13)。

<sup>13</sup> = 「梵本轉音」(大正 vol. 50, p. 265b l. 12)。

4356, 4393); *luy li qab šeg tegmä altı türlüg adıra qabšuru yörgülük samazlar* 「六離合釋という、六種の離れ合して釋する合成語」(*Tattvārthā* A4355-4356, 4393-4394)。21V の葉數「十一」は上部欄外中央に漢字で書かれている。

21V2 *tükäl bilgä bilig* 「一切智」。漢文原文「敬禮一切智佛日無垢輪」は U5335 (Text F) では次のようにウイグル語譯されている：*ayırin ayayin yükünü täginürmn s(a)rvatyañ tükäl bilgä biligligkä tükälligkä* : [bur]xanlıy kün tñri kirsiz arıy tilgänligkä (*Shōgaito et al.* 2015: 62)<sup>14</sup>。

21V3 *mitir-a gupte* は『入阿毘達磨論』の注釋書の著者と考えられる。サンスクリット形は *Mitra-gupta* と推定されている (百濟 1980: 408)。šlok < Skt. *śloka* 「頌、偈」。

21V4 *mün qaday* 「過失」。sikantile は塞建陀羅 (塞建地羅) と漢字表記される『入阿毘達磨論』の著者の名。サンスクリット形は *Skandhila* と推定されている (百濟 1980: 408)。

21V16 *yaruq yaltrıq* 「光明」。

21V16-17 *se-lügdä yeg* 「世において優れた」。Cf. *yertincülügtä yeg nom* 「世第一法」(*Tattvārthā* B601; *Kośa* 26R12)。

21V17 *qarañyuy taryardači* 「冥を斷ずる」。Cf. *qaltı taryarmaq ärür alqu adqanyulartaqi alqu bölüklärtäki qarañyuy qararıylarıy* 「謂滅諸境一切品冥」(謂わく、諸々の境にある、一切品にある冥を滅することである) (*Tattvārthā* A604-606)。

21V17 *sarvadyan* < Skt. *sarva-jñāna* 「一切智」。Cf. *yindäm sarvadyan tükäl bilgä biligkä ök bilgülük ärür* 「唯一切智知」(唯だ一切智のみ(が)知るところである) (*Tattvārthā* A938)。öñi üdrül- 「離れる」。

21V18 *örtüg-lär tidıy-lar* 「有覆障」。ört- tıd- 「覆障する」の例が『實義疏』に見られる：*alqu barča umaz üçün tüzü örtgäli tidıyalı* 「一切不能遍覆障故」(一切、遍く覆障することができない故) (*Tattvārthā* A3180)。ödğür- (ötgür-) 「了達する、達する」。

## [22R]

漢文原文：一苾芻律儀。二苾芻尼律儀。三勤策律儀。四正學律儀。五勤策女律儀。六近事男律儀。七近事女律儀。八近住律儀。(同 p. 981b ll. 2-5)

- 1) *üdrültürdäči üçün töz üz-äki tidıy üz-äki*
- 2) *yazuq-tın anın adı bolmiš ol toyın sanvar-ı*
- 3) *tep inçip munuñ oq bälğüsi öñi bolmaq-ıntın*

<sup>14</sup> このウイグル文は、前半と後半に分けて、それぞれ原漢文のウイグル漢字音表記に後續して書かれている。なお引用元の *s(a)rva'tyña, tg[l]i* を Peter Zieme 氏のご指摘に従いそれぞれ *s(a)rvatyañ, tñri* と訂正する。

- 4) adī bolmīš ol šmnanč sanvar-ī tep :: 又 inčip bular
- 5) -niņ ol bālgū (○) (āt'öz)-lāri adīrilmīš üçün ymāter öņi
- 6) üdrülgülük ölü-tā ulatī üçägü-nüņ : öņi
- 7) üdrülgülük äzüg sav-ta ulatī törtägü-nüņ
- 8) adī bolur töz üz-äki yazuq tep öņi üdrülgü
- 9) -lük ödsüz aš-ta uladī-lar-niņ adī bolur
- 10) tīdīy üz-ä-ki yazuq tep kim-lār täginip
- 11) öņi üdrülmiš ärsār on türlüg öņi üdrül
- 12) -gāli tägimlig-lār-tin : adī bolur šarmire
- 13) sanvar-ī tep anta öņdün-ki törtägü
- 14) -si ärür töz üz-äki yazuq kenki aldīyū
- 15) -sī ärür tīdīy üz-äki yazuq inčip munuņ
- 16) oq bālgü-si öņi bolmaq-in-tin : 又 bular
- 17) -niņ oq töz 又 bālgü-lāri adīrilmīš üçün
- 18) ymāter : adamīš ol šarmiranč sanvar-ī
- 19) tep kim-lār : täginmiš ärsār altī türlüg
- 20) töz nom-larīy ulatī altī türlüg eyin
- 21) -ki nom-lar-īy uqīdīp aņayu bālgülüg ad
- 22) üz-ä adamīš ol šikšamane sanvar-ī tep altī
- 23) türlüg töz nom-lar altī türlüg eyin-ki
- 24) nom-lar ärsār qaltī vinay-a karik-ta söz-lāmiš
- 25) ol :

22R1)性にある遮にある 2)罪を離するもの故に、それでその名が苾芻律儀となった。3)而してこれの相が異なることから 4)その名が苾芻尼律儀となった。又、このようにこれらの 5)體が違っている故に、とも言う。

6)離するべき殺生など三つの、7)離するべき妄語など四つの 8)名が性罪となる。離するべき 9)非時食などの名が 10)遮罪となる。誰か受けて 11)離するものは應に十種を 12)離することから、その名は勤策 13)律儀となる。そこで先の四つは 14)性罪である。後の六つは 15)遮罪である。而してこれの 16)相が異なることから、又これら 17)の性、又、相、が違っている故に、18)とも言う、勤策女律儀と呼んだ。

19)誰か受けたものは六種の 20)根本の法並びに隨 21)法を顯して、別の相もてる名 22)によって正學律儀と名付けられた。六 23)種の根本法、六種の隨 24)法はちょうど毘奈耶頌において説かれた。

22R1 üdrültürdäci に先行する行末には öņi があつたと推定される。Cf. öņi

- üdrültürdäcilär ärür osal sımday ayıy yoriqtin 「離放逸惡行」(放逸の惡行から離れさせるものらである) (*Tattvārthā* A1292)。tidiy は「障」、「礙」などに相當する。
- 22R2 toyin 「比丘、苾芻」。sanvar < Skt. *saṃvara* 「律儀」。苾芻律儀以下、八種の別解脱律儀については『阿毘達磨俱舍論』ウイグル語譯で次のように列擧されている：別解脱律儀 pratimokṣa sanvar töz üzä adirilip säkiz bolur : aṅ'ilki toyin sanvari ikinti šmnanč sanvari üçünč šikšamane sanvar<sup>15</sup> törtünč šarmire sanvari bešinč šarmiranč sanvari altinč upasī sanvari yetinč upasanč sanvari säkizinč baçaq sanvar ärür 「別解脱律儀相差別有八。一苾芻律儀。二苾芻尼律儀。三正學律儀。四勤策律儀。五勤策女律儀。六近事律儀。七近事女律儀。八近住律儀。」(*Kośa* 30R26-30)。詳しくは Shōgaito (2014: 187-188) を参照。
- 22R4 šmnanč < Sogd. *šmn' nč* = Skt. *bhikṣunī* 「苾芻尼」。比丘尼に同じ。
- 22R5 ät'öz 「體」は bälgü 「相」から訂正されたものである。
- 22R6 ölüť 「殺生」。Cf. ölüť ölürmäk 「殺生」(*Kośa* 30V33)。「離するべき殺生など三つ」は殺生・偷盜・邪淫を指す。
- 22R7 äzüg sav 「虚言」。Cf. törtünč äzüg igit sav 「四虚誑語」(*Kośa* 30V40)。「離するべき妄語など四つ」は殺生・偷盜・邪淫・妄語を指す。
- 22R8 töz üz-ä-ki yazuq 「性罪」。Cf. titar üçün alqu töz<sup>16</sup> üzäki yazuquy 「爲防諸性罪」(*Kośa* 33V41)。
- 22R9 ödsüz aš 「非時食」。Cf. säkizinč ödsüz aš yemäk ärür 「八非時食」(*Kośa* 30V44)。
- 22R12 šarmire < Toch. B *šarmire* (~ *šanmire*) < Skt. *śrāmaṇera* 「勤策」。沙彌に同じ。『俱舍論』(*Kośa* 30R34) では *šramire* という形でも見られる。
- 22R18 šarmiranč 「勤策女」。Cf. Toch. B *šanmirāñca*。
- 22R20 töz nom 「根本法」。eyinki nom 「隨法」。
- 22R21 aṅayu 「別の、別に」。
- 22R22 šikšamane < Skt. *śikṣamāṇā* 「正學」。

漢文原文：不獨在道行	亦不獨渡水	不故觸男子	不與男同宿
不爲媒嫁事	不覆藏他罪	是名爲六法	正學女應知
金銀不應捉	不除隱處毛	亦不掘生地	不斷於青草
不得不受食	及以殘宿食	是名爲六隨	

(大正 vol. 24, p. 646b l. 27-646c, l. 5)

- 25) 不獨在道行 yalaṅuz-in turup yol yori  
 26) -mamaq ymä ök yalaṅuz suv káčmämäk bilip uqup

<sup>15</sup> üçünč šikšamane sanvar は行間に書かれている。

<sup>16</sup> töz は行間に書かれている。

- 27) urī-larīy būritmāmāk urī-lar birlā birgārū  
 28) tūnāmāmāk arqučī iš-in qīlmamaq adīn-larīy  
 29) yazuq-īn ördmāmāk kizlāmāmāk bular-nīñ  
 30) adī bolur altī töz nom-lar tep : šikšamane  
 31) -lar-qa ögrādingülük ärür tep bilmiş kārgāk  
 32) altun-uγ kümüş-üg tutmamaq kiz-lāglig orun  
 33) -taqī tüüg 又 tüü-sin ymāter tartmamaq ymä ök <k>iši (?)  
 34) yerig qazmamaq yaš ot-nuñ učīn üz-māmāk ödün  
 35) -mādük aš-īy tāginmāmāk ulatī qalīnču tūnāmiş aš  
 36) -īy ymä bular-nīñ adī bolur altī türlüg eyin  
 37) -ki nom-lar tep šikšamane-lar-qa ögrātingülük ärür  
 38) tep bilmiş kārgāk qaltī kim-lār tāginip öñi  
 39) üdrülmiş ärsär beš türlüg öñi üdrülgāli  
 40) tāgimlig-lār-tin anta tōrt töz üz-aki  
 41) -sintā bir-i-si tidīy üz-āki-sintin 又 anta  
 42) tōrtägü-si töz üz-āki birägü-si tidīy üz  
 43) -āki tetir ymāter : adī bolur upasī sanva[r-ī]  
 44) tep : bālgü-si öñi bolmaq uγur-īnta[ ]

[22V]

- 0) žiblun baštīnqī toquz qīrq  
 1) -y atīrīlmīš üçün ymāter : adamīš ol upasanč sanvar-ī  
 2) tep : kim-lār tāginmiş ärsär tōrt türlüg čaxšapt  
 3) bölük-in bir simday-siz üç fitīy tuduy bölük  
 4) -in : adī bolur säkiz bölük bačaq sanvar tep 又 säkiz  
 5) töz-ün ymāter munta toyīn-nīñ šarmire-nīñ sanvar  
 6) -ī bačaq sanvar-ī öñi üdrültürtäči ärip yeel yorīq  
 7) -tīn : upasī sanvar-ī öñi üdrültürtäči ärür amranmaq  
 8) -ta tärs-gārū-sinčā yor(i)maq-tīn : olar-nīñ um{u}γ-luγ  
 9) ädrām-lari eyin inčip tetā yrlīqamīš ol ögrādingülük  
 10) orun-uγ tep 又 tetmiş ol ögrātingülük orun-lar-in  
 11) -ta tep ymāter :

25)獨り在って道を行じ 26)ないこと。亦獨り水を渡らないこと。了知して(=故意に) 27)男子に觸れないこと。男子と一緒に 28)泊まらないこと。媒嫁事を爲さないこと。他の 29)罪を覆藏しないこと。これらの 30)名が六根本法となる。正學女 31)へ學ぶところと知るべし。

32)金銀を捉さないこと。隱處 33)にある毛を抜かないこと。生 (?) 34)地を掘らないこと。青草の先を斷たないこと。申し出 35)なかった食を受けないこと。及び残りの泊まった食事 36)をも。これらの名は六種隨 37)法となる。正學女へ學ぶところ 38)と知るべし。もし誰か受けて、39)五種の應に遠離す 40)べきことから、そこに四性にあるものの 41)一つが遮にあるものから、又そこに 42)四つが性にあるもの、一つが遮にあるもの 43)ともいう、遠離したものはその名が優婆塞戒 44)という。その相が異なることに由て・・(又?・・)

22V0) 入論卷上 39

1)は違っている故にともいう、優婆夷戒と名付けた。  
2)誰か四種戒 3)品と無放逸三遮品を受けた者は 4)その名が八近住律義となる。又 *säkiz* 5) *töz-ün* ともいう。ここで苾芻の勤策の律儀、6)近住律義は風行を離れさせるものであり、7)苾芻律儀は邪行を離れさせるものである。8)それらの救いのある 9)徳に随って次のように習するべき處を述べたもうた。10)又、習するべき處において述べた、11)とも云う。

22R24 以下では、正學律義に關連して、六種の根本法および六種の隨法を『根本說一切有部毘奈耶頌卷下』に見られる偈文のウイグル語譯によって述べている。*vinaya-a karik* < Skt. *vinaya-karika* 「毘奈耶頌」。

22R28 *arquči* は DLT 82.15 に‘mediator between two men; go-between of the two families in a marriage’ (Dankoff 1982-1985, I: 161) とある。*arquči iši* で「媒嫁事」を意味する。

22R29 *ört- kizlä-*は「覆藏」の意味で用いられている。

22R43 *upasī* < Sogd. *'wp's'y* = Skt. *upāsaka* 「近事」。優婆塞に同じ。

22V0 *žibln* (*syplwn*) *baštinqi* 「入論卷上」。*žib* は「入」<*nziəp*>のウイグル漢字音形式。*lwn* は臻撰諄韻に屬する「論」<*liuēn*>のウイグル漢字音形式を表わすものと見て *lun* と再構できる。Cf. Shōgaito et al. (2015: 183, 135)。

22V1 *upasanč* < Sogd. *'wp's'nch* = Skt. *upāsikā* 「近事女」。優婆夷に同じ。

22V3 *sīmday-siz üč tītīy tuduy bölük* 「無放逸三遮品」。Cf. *birägü ärür sīmtaysiz bölük* 「一種是不放逸支」(*Kośa* 33V46)。 *tītīy tutuy* 「障礙」(*Tattvārthā* B2208)。 *kenki bolmīš üčägü ärür tītīy tutuy bölüki* 「後有三種是禁約支」(*Kośa* 33V49-50)。

22V4 *baçaq sanvar* 「近住律儀」。原漢文に従えば *säkiz bölük baçaq sanvar* ではなく *säkizinč baçaq sanvar* となるべきところか。Cf. *säkizinč baçaq sanvar ärür* 「八番目は近住律儀である」(*Kośa* 30R29-30)。

22V6 *yeel yoriq* 「風行」。Cf. *üčünč yeel yoriq* 「三非梵行」(*Kośa* 30V40)。

22V7-8 *amranmaq-ta tärs-gärü-sinčä yorımaq* 「邪行」。Cf. *üčünč amranmaqta trsgärü yorımaq* 「三慾邪行」(*Kośa* 30V34)。

漢文原文：如是八唯慾界繫。(大正 vol. 28, p. 981b l. 5)

- 11) 論曰 munī munčulayu sākiz-ägü yintäm  
 12) amranmaq uyuş-ta oq tutulur tep : 解曰 tudulmaq ärsär  
 13) qaltı tudulmaq sanmaq ärür : 又 sanılmaq ärür ymäter : munda  
 14) bay-qa çuy-qa tägmäk tep yörüg ol : ymä ök munta  
 15) amranmaq az-qa tatıanyuluq yapşinyuluq tep yörüg ol :  
 16) bu yintäm üç divip-lar-ta oq bolur : öñi ketärmış  
 17) kărgäk utrakavrap-ıy : anta yänä öñi kedärmış  
 18) kărgäk şadi-pandi-ta ulatı-larıy tep :

11) 論曰：「このようにして八つの唯 12)慾界に繋がれる」と。

解曰：「繋がれる」は 13)繫屬である。又 sanılmaq ärür と云う。ここでは 14)繫縛を被ることという義である。またここでは 15)慾貪に味著するところという義である。16)これは唯三洲においてのみ成ずる。17)必ず北洲人除く。そしてまた 18)必ず黄門等を除く、と。

22V12 amranmaq uyuş 「慾界」。Cf. 庄垣内(2008: 478); Shōgaito (2014: 222)。

22V14 bay çuy 「繫縛」。Cf. nizvanılar üklimiş aşılmış üçün anı üçün adamış ol bay çuy tep 「煩惱が増大したため、それ故『繫縛』と名づけた」(Tattvārthā A3250-3251)。

『俱舍論』(Kośa 37V20)では bayçuy (p'q̄cwq) と 1 語で綴られている。

22V15 tatıanyuluq yapşinyuluq 「味著」。Cf. a]zqa qoşdaçı aznıñ tatıanyuluq yap[şinyuluq 「食に繫するものは、食(に)味著するところの」(ロシア所藏ウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書。庄垣内 2009: 100)。

22V16 divip < Skt. dvīpa 「洲」。「三洲」は四大州のうちの北俱盧洲を除いた東勝身洲、南瞻部洲、西牛貨洲の三つを指す(中村 1981: 471c)。

22V17 utarkavrap < Skt. uttara-kaurava 「北俱盧洲(人)」。同じ形はロシア所藏ウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書にも見られる(庄垣内 2009: 100)。北俱盧洲人に對する否定的な見方については小川(1985)を参照。

22V18 şadi-pandi < Skt. śaṅḍhapāṇḍa 「黄門」。完全なる男根を具えていない者(中村 1981: 129b)。

漢文原文：靜慮律儀。謂色界三摩地隨轉色。此唯色界繫。(同 p. 981b ll. 6-7)

18) 論曰 dyana-



- 19) sanvar ärsär qaltī öñlög uyuş-taqī dyan eyin  
 20) ävriltäci öñ ärür : bu yintäm öñlög uyuş-ta oq  
 21) tudulur tep : 解曰 dyan tep temiş-i ärsär qaltī  
 22) tägmäz-känki tayaq dyan araqī dyan tört töz  
 23) tüp selu dyan-lar ärür : eyin ävriltäci öñ ärsär  
 24) bu oq inçip uqıdmaz öñ ärür : bu dyan-ta ulatī-lar  
 25) birlä bir tāk tuymaq öçmāk-lig üçün 又 bu dyan  
 26) birlä täñ tüz tuйдаçı öçtäci üçün ymäter bu 正/sav ol  
 27) iış-läşür tükäl yeti bölük-lärig : bolmaz anılayu (?)  
 28) öñi maxabut-lar-niñ tıltay bolmaq-ı öñi kedärmiş (○) (kedärip)  
 29) kargäk (○) tavranmaq üz-äki-sin ken tuйдаçı-sin : yintäm  
 30) töz tüp qılınç yol-ınta tutulmış-ı oq bolur :  
 31) öñlög uyuş-ta tudulur tep temiş-i ärsär : tudulmaq  
 32) -niñ yörügi qaltī öñdün nä ymä söz-lämiş täg  
 33) tetir :

18) 論曰：靜慮 19)律義は謂く色界にある三摩地に随つて 20)轉ずる色である。これは唯色界においてのみ 21)繋がれる、と。

解曰：「靜慮」と言ったのは、謂く、22)未至定、中間定、四根本 23)靜慮定らである。「隨轉する色」は 24)これは即ち無表の色である。この靜慮等 25)と同じく生滅もてるものの故に、又、この靜慮 26)と等しく生滅するものの故に、ともいふ。これが正しい語である。27)完全な七品を要する。さらに (?) 28)別の大種の因となることはない。29)精進におけるものを、當生を除いて、唯 30)根本業において繋がれたもののみである。

31)色界において繋がれると云ったのは「繋」 32)の義 (である)。前に所説のごとく、33)と云う。

22V18 dyana-sanvar < Skt. *dhyāna-saṃvara* 「靜慮律儀」。Cf. 庄垣内(2008: 545); Shōgaito (2014: 243)。『俱舍論』(*Kośa* 31V44) には「定律儀」にあたる例も見られる。

22V19 öñlög uyuş 「色界」。Cf. 庄垣内(2008: 606); Shōgaito (2014: 262)。『實義疏』(*Tattvārthā* B416, 417) には öñ uyuş という形も見られる。

22V19-20 eyin ävril- 「隨轉する」。Cf. 庄垣内(2008: 548)。『俱舍論』には能動形 eyin ävir-の例も見られる : eyin ävirdäci tıltay 「隨轉因」(*Kośa* 29R40)。

22V21-23 qaltī tägmäz-känki tayaq dyan araqī dyan tört töz tüp selu dyan-lar ärür 「謂く、未至定、中間定、四根本靜慮定らである」。tägmäzkänki tayaq dyan (< Skt.

- dhyāna*) は「未至定」。araqī dyan は「中間定」。selu は漢語「靜慮」<dzien lo> のウイグル漢字音形式。類似の文は『俱舍論』や『實義疏』にも見られる : qlti tägmäzkänki tayaq dyan araqī dyan ulatī tört töz tüp dyanlar ärür 「謂未至中間及四根本定」 (*Kośa* 32V22-24) ; qaltī tört töz tüp selu dyan tägmäzkänki tayaq dyan araqī dyan ärür 「謂わく、四根本靜慮定、未至定、中間定である」 (*Tattvārthā* A3825-3826)。
- 22V24 uqıdmaz öj 「無表色」。Cf. bular ikigününj öz tözi uqıtmaız öj ärmäz 「此二自性非無表色」 (*Kośa* 31V8-9)。一方ロシア所藏『大乘法苑義林章』には uqıtmaqsız が「無表」を表わす例がある (庄垣内 2004: 204)。
- 22V27 iış-läš- 「要する」。Cf. ol iışläšip köñülkä tayaqlıyın uyur üçün yorıyalı adqanyularta 「彼要依心能行境故」 (*Tattvārthā* B180)。ロシア所藏『大乘法苑義林章』には iışläš- が漢語の「邀期」に對應する例がある : kántü özi iışläšmäk 「自邀期」 (庄垣内 2003: 151)。
- 22V28 maxabut < Skt. *mahā-bhūta* 「大種」。öñi kedärip 「除いて」は、最初 öñi kedärmış (29) kärgäk 「除くことが必要である」と書かれた。Cf. altı tıltaylarta öñi ketärip ärsinmä tıltayıy 「於六因内除能作因」 (*Kośa* 25R18) ; qaltı yoluy öñi kedärip adın ediglig nomlar ärür 「謂除道諦餘有爲法」 (謂わく、道を除いて餘の有爲法である) (*Tattvārthā* A2593-2594)。
- 22V29 kärgäk は訂正されている。ken tuйдаçı 「當生」。Cf. birdämläti tıdmaqün ken tuйдаçı nomlarıy bululur bilmätin öcmäk 「永礙當生得非擇滅」 (永く當生の法を妨げることから、非擇滅が得られる) (*Tattvārthā* A3598)。

漢文原文：無漏律儀。謂無漏三摩地隨轉色。此唯不繫。(同 p. 981b ll. 7-8)

- 33) 論曰 anasirav-a-sanvar ärsär qaltı aqıysız  
 34) dyan eyin ävriltäči öj ärür : bu yintäm qayu  
 35) -ta ymä tutulmaz tep : 解曰 anasirav-a-sanvar tep  
 36) temiš-i ärsär qaltı tüz-ün yol birlä-ki öj  
 37) ärür : ol (○) oq (○) (inčip) öñdünki altı orun-lar-qa (○) (-niñ) tatyanıy  
 38) -luq yapšinyuluq orun (○) (orun-i) ärmäz üçün anın adamış  
 39) ol qayu-ta ymä tudulmaz tep : ängäk-tä nom bilgä  
 40) bilig taplay birlä birgärü tuйдаçı-sı : ulatı yänä  
 41) -läyü tuymaq-sız bilgä bilig birlä birgärü tuйдаçı  
 42) -sı ärür : tudulmaz tep temiš-i ärsär qaltı üç uyuş  
 43) [-larınt]aqı az-qa tatyanıy-luq yapšiny-luq orun ärmäz  
 44) [ ] tep :

33) 論曰：無漏律儀は無漏の三摩地に 34) 随って轉ずる色である。これは唯何 35) にも繋げられない、と。

解曰：「無漏律儀」と 36) 云ったのはちょうど聖道と俱にある色 37) である。而して以前の六處の味 38) 著するところの地ではない故に 39) 「何にも繋げられない」と稱した。苦法智 40) 忍と俱に生ずるもの、さらに 41) 無生智と俱に生ずるもの 42) である。「繋げられない」と云ったのはちょうど三界 43) にある貪に味著するところの處ではない。44) ・ ・ と。

22V33 *anasirav-a-sanvar* < Skt. *anāsrava-saṃvara* 「無漏律儀」。Cf. Shōgaito (2014: 222)。續く説明では「無漏」がウイグル語で *aq̄rysiz* と表現されている。Cf. *aq̄iy* 「漏」、*aq̄yliy* 「有漏」。

22V37 *ol oq* 「まさにその」が *inčip* 「而して」に訂正され、*orun-lar-qa* 「(六) 處に」の與格接尾辭-*qa* が屬格接尾辭-*nij* に訂正されている。

22V38 *orun* 「地」が前行の *orun-lar-nij* に呼應して *orun-i* 「その地」に訂正されている。

22V39-40 *āmgäk-tä nom bilgä bilig taplay* 「苦における法智忍」 = 「苦法智忍」。Cf. *Tattvārthā* A650; *Kośa* 26R13, 38V11。

22V41 *tuymaq-siz bilgä bilig* 「無生智」。Cf. *Tattvārthā* B917。

漢文原文：不律儀者。謂諸屠兒及諸獵獸捕鳥捕魚劫盜典獄縛龍煮狗置犂魁膾。(同 p. 981b ll. 8-9)

44) 論曰 *asanvar ärsär qaltı tuži*

44) 論曰：不律儀は謂わく屠兒

22V44 *asanvar* < Skt. *asaṃvara* 「不律儀」。Cf. Shōgaito (2014: 225)。*tuži* (*twšy*) は漢語「屠兒」<*do nziě*> のウイグル漢字音形式と考えられる。ウイグル語文獻で出てくるのはこの文獻のみである。

[24R]

漢文原文：修靜慮者有三種異故。(同 p. 982c ll. 13-14)

1) -l'r-nynk yörügindäki-čä sözläsär : dyan-ta bišrundači

- 2) -lar-niň bar ätür üç türlüg atırdı tep : tāk
- 3) tuγup üç türlüg mün qadaγ-lar : būdmāz üçün
- 4) yiltiz-niň yörügi : anın uz söz-lāmiš bolmaz :
- 5) kenki baxši-niň qayu söz-lāmiš-i ārsār : üç
- 6) türlüg yrly-siz yiltiz-lar-niň : yüz sākiz ād-lār
- 7) üz-ā būdār anıň töz-i : biligsiz-niň az birlā
- 8) san-larī öñdün söz-lāmiš tāg tetir : örtüglüg
- 9) yrly-siz körüm ymä ök öñdün-ki ((söz-lāmiš)) tāg tetir :
- 10) örtügsüz yrly-siz-ī : öz uγuš-larta qamaγ-ī sākiz
- 11) bolur : amranmaq uγuš-ta tükāl bolur tört : öñlüg
- 12) ätöz-tā üç bolur : öñi kedārmiš kārgāk uzanmaq
- 13) orun-ın : öñsüz uγuš-ta yindām bir ök bolur :
- 14) qaltı öñi bišmaq tuγum ätür : munı munçulayu az on :
- 15) biligsiz altmiš tört : örtüglüg yrly-siz bilgā
- 16) bilig altı otuz bolur : ol oq öñdünki qayu söz
- 17) -lāgüçi altı otuz körüm-lār ätür : örtügsüz yrly
- 18) -siz bilgā bilig sākiz bolmaq üz-ā : būdār yüz
- 19) sākiz : yrly-siz tegüçi savda munda nāgü tep yörüg'ol
- 20) teptesār : ülüš nom-ta kāntü yörā söz-lāmiš ätür :
- 21) ädgü-sin ayıγ-ın ikigü-ni birlā : bolmaz üçün uqıdγalı
- 22) tep : inçip munta ädgü-sin : ulatı ayıγ-ın uqıdγalı
- 23) bolγuluq-suz tep yörüg'ol : yänā ymä ençgülüg āsāngü
- 24) -lüg ymä : ençgüsüz āsāngüsüz ymä qılmadaçı tep yörüg
- 25) ol : 亦无智學 ymä tüşüt-lānmiš ögrādinmiš ymä
- 26) tüşüt-lānmādük ögrādinmadük ymä qılmadaçı tep
- 27) yörüg'ol : anı üçün söz-lāmiš ätür inçā tep : ädgü
- 28) -sin ayıγ-ın ikigü-ni birlā bolmaz üçün uqıdγalı tep
- 29) ulatı : yänā ymä umaz uqıdγalı säviglig sävigsiz
- 30) tüş-lārin tep temiš-i ārsār : inçip munda yrly
- 31) -siz tegüçi sav-ta : tartıp bolturmadaçı tep yörüg
- 32) ol säviglig sävigsiz tüş-lārig : munda-ta ulatı
- 33) -lar-niň yrly-siz yiltiz bolmaq-ın : ülüš nom-ta
- 34) kāntü yörā söz-lāmiš ol : uyur üçün tuγuryalı
- 35) adın yrly-siz kkir-lig nom-larıγ : azu-ča ymä alqu
- 36) yrly-siz nomlarıγ : adamış ätür yrly-siz yiltiz tep :
- 37) yrly-siz kirlig nomlar ārsār örtüglüg yrly-siz nom
- 38) -lar ätür : alqu yrly-siz nomlar ārsār örtügsüz yrly

## 39) -süz nom-lar ärtür :

24R1)・・の義にあるものとして説くなら、静慮において修するものには2)三種の異りが有るのであると。3)単に三種の過失が生じて4)根の義が完成しないために、それで勝妙に説いたものではない。5)後の師の所説は：三種の6)無記根の百八7)事を以てその性が完成する。無明の貪と8)その數とは以前に説いた如しと云う。有覆9)無記の見も以前（に説いた）のもの如しと云う。

10)無覆無記の自界におけるその衆は八つ有る。11)慾界には四つが具有する。有色の12)身には三つ有る。必然的に工巧處を除く。13)無色界においては唯一つのみが有る。14)猶、異熟生である。これこの如く、貪は十、15)無明は六十四、有覆無記の慧は16)二十六有る。それは以前に所説するところの17)二十六見である。無覆無記の18)慧が八有ることを以て百八が完成する。

19)無記という言にここでは何という義が有るのか20)と云うなら、分法(?)において自ら解釋したのである。

21)「善と悪と二つをとともに顯すことはできない故に」。22)而してここでは善を及び悪を顯すことが23)できなきことという義である。また平安有るものにも24)平安無きものにも爲さないものという義で25)ある。また、智學も26)無智學をも爲さないものという27)義である。それ故に次のように説いたのである：「善28)と悪とを二つをとともに顯すことができない故に」と29)等。「また愛と非愛の30)果を顯すことができない」と云ったのは：而してここに無記31)という言に愛と非愛の32)果を招くという義がある。これ等が33)無記の根となることを分法(?)に34)自ら解釋したのである。「餘の無記染汚法を35)或はまた諸の無記法を生じさせることができる故に、36)無記の根と名づけたのである」。37)無記染汚法は有覆無記法38)である。一切の無記法は無覆39)無記法である。

24R1-2 dyan-ta bišrundači-lar-niñ bar ärtür üç türlüg atirdi は漢語佛典に見える「修靜慮者有三種異」のウイグル語譯である。その内 üç türlüg atird (adirt) は「三種異」に当たり、『入阿毘達磨論』(同 p. 982c ll. 14-15)によれば「一愛上靜慮者」、「二見上靜慮者」、「三慢上靜慮者」を指す。

24R5 kenki baxši 「後の師」は、『入阿毘達磨論』(同 p. 982c ll. 15-16)によれば「毘婆沙者」を指す。

24R6 yüz säkiz äd-lär は「百八事」あるいは「百八物」を意味する。百八の煩惱(108 kleśas, Skt. aṣṭōttara-śata)を指す。

24R9 ymä ök öñdün söz-lämiš täg tetir 「また以前に説いたものの如しと云う」の söz-lämiš は抹消され、行間に -ki が書き込まれている。訂正後のウイグル文は「また以前のものの如しと云う」という意味である。

24R17-18 örtügsüz yrly-süz bilgä bilig 「無覆無記の慧」。Cf. alqu ördügsüz yrlyfsüz bilgä

biligtä ulatılar alqu körüm ärmâz 「一切無覆無記慧等悉皆非見」（一切の無覆無記の慧等は悉く皆見ではない）（*Tattvārthā* B911）。

24R20 *ülüş nom* の *ülüş* は『實義疏』では漢語の「分」に当たる場合が多いが（cf. 庄垣内 2008: 711）、*ülüş nom* が何を示しているのか今のところはっきり分からない。24R33 にも出てくるが、ともに「分法」と譯しておく。同じ表現はロシア所蔵の『入阿毘達磨論』注釋書にも見られ、そこでは「別の観点」という意味が示唆されている（庄垣内 2008: 148）。

24R21 Cf. 「於善不善義俱不記故名無記」（善、不善の義に於いて、俱に記せざるが故に無記と名づく）（982c ll. 17-18）。27-28 行でも繰り返されている。

24R29-30 Cf. 「又不能記愛非愛果故名無記」（又愛、非愛の果を記すること能はざるが故に無記と名づく）（982c ll. 18-19）。*sävigliḡ sāvigsiz tüş* は「愛非愛果」に当たる。*sävigliḡ tüş* は『俱舍論』（*Kośa* 35r11 ほか）でも「愛果」に当たっている。一方 *Kośa* 36R6 のように *sävigliḡ sāvigsiz* が「可意非可意」に当たる場合もある。Cf. 庄垣内(2008: 636); Shōgaito (2014: 271)。

24R34-36 Cf. 「能生餘無記染法或諸無記法。故名無記根」（能く餘の無記の染法、或は諸の無記法を生ずるが故に無記根と名づく）（982c ll. 19-20）。

漢文原文：結有九種。謂愛結恚結慢結無明結見結取結疑結嫉結慳結。（同 p. 982c ll. 21-22）

- 39) 論曰結有九 *qoşuy toquz tür*  
 40) -lüg bolur : *qaltı az qoşuy övkä qoşuy küvänäç*  
 41) *qoşuy* : *biligsiz qoşuy körüm qoşuy qavramaq*  
 42) *qoşuy sezig qoşuy* : *küni qoşuy* : *saran qoşuy*  
 43) *ärür tep* : 解曰繫縛 *bap çup turyurur*  
 44) *üçün* : *öz ät'öz-lärtä aţ-un-larta tuşum-larda*  
 45) *anın adı bolmiş ärür qoşuy tep* : *azu-ça ymä qayu*  
 46) -ta bolsar bular : *ötrü ämgäk birlä qatır qavşur*  
 47) -ur üçün *anın adı bolmiş ärür* : *qoşuy tep* : *azu*  
 48) -ça ymä uyur üçün *tuşuryalı ada tudaş*

[24V]

- 0) 入論卷中 十一葉  
 1) *anın adı bolmiş ärür qoşuy tep* : *adı ködrülmış*  
 2) *yrliqamiş ärür bu bolur toquz türlüḡ tep* :

39) 論曰：結は九種 40)である。謂わく、愛結、恚結、慢 41)結、無明結、見結、取 42)結、疑結、嫉結、慳結 43)である。

解曰：繫縛して 44)自身に、趣に、生に住させる故に、45)それでその名は結となるのである。或いはまた 46)これらが何かに在るなら、すなわち苦と混合 47)する故に、それでその名は結となったのである。或いは 48)また、災いを生じさせ得る故に、

24V0) 入論卷中 十一葉

1)それでその名は結となったのである。世尊が 2)これは九種となると言うたのである、と。

24R39 qoşuy は「詩」を意味することも多いが、ここでは「結」を譯している。

『實義疏』と『俱舍論』でも「結」に当たっている。Cf. 庄垣内(2008: 626); Shōgaito (2014: 268)。『入阿毘達磨論』(同 p. 982c ll. 21-22)によると、「結」には愛結、恚結、慢結、無明結、見結、取結、疑結、嫉結、慳結の九種類があり、それらはこの文獻でそれぞれ az qoşuy, övkä qoşuy, küvānč qoşuy, biligsiz qoşuy, körüm qoşuy, qavramaq qoşuy, sezig qoşuy, küni qoşuy, saran qoşuy と譯されている。

24R40 az qoşuy 「愛結」は『實義疏』(Tattvārthā A1156, 4235) にも出てくる。

24R42 küni qoşuy 「嫉結」の küni は *kwnīy* と書かれている。

漢文原文：愛結者。謂三界貪。是染著相如融膠漆。故名爲愛。愛卽是結故名愛結。(同 p. 982c ll. 22-23)

- 2) 論曰
- 3) 愛結者 az qoşuy ärsär : qaltı üç uyuş-lardağı
- 4) az-lar ärür : ärür botuldurtaçı yapşinturdaçı töz
- 5) -lüg : qaltı yaru yelim : ça saqız tæg üçün anın
- 6) adı bolmiş ärür az tep : az qayu ärsär qoşuy ymä
- 7) ol oq üçün : anın adamış ärür az qoşuy tep :
- 8) 解曰於所緣境 adqanyuluq adqanyu-larta : az
- 9) -landurur bodulturur yapşinturur adqanturur
- 10) yïyındurur tıdınturur küzätindürür üçün : anın
- 11) adı bolmiş ärür az tep : üç uyuş-lardağı az tep
- 12) temiş-i ärsär : tayaq-ın ulatı adqay-ın tuta ärür :
- 13) inçip üç uyuş-larqa tayaq-lıy : ulatı üç
- 14) uyuş-lar adqay-lıy tep ärür : yänä ymä yöläşrüg

- 15) üz-ä uqıdur az-niñ uyur-in : qaltı yaru yelim-i  
 16) ça saqız-ı năčă năčă büridmiş-čă : anča anča yapışmış-ı  
 17) tąg : az ymä ök yänă ančulayu oq : năčă năčă bodulmıš  
 18) -ča anča anča oq yapşındurur : az qayu ärsär qoşuy  
 19) ymä ol oq üçün tep temiş-i ärsär : tıdar adın  
 20) nikay-lıy-lar-niñ söz-lämiş-in : adın nikay-lıy-lar söz  
 21) -läyür-lär inčä tep : az ärsär inčip köñül-täki ärür :  
 22) qoşuy nän köñül-täki ärmäz : az-niñ qoşuy-ı üçün :  
 23) tep : amtı uqıdylır üçün qoşuy-ta öñi aqayuy  
 24) bar ärmäz-in : az : anın söz-lämiş ärür : az qayu ärsär  
 25) qoşuy ymä ol oq üçün : anın adamiş ärür az qoşuy  
 26) tep :

2) 論曰：3)愛結は謂わく三界にある 4)貪である。染著の相もてるものである。  
 5)ちょうど融膠漆のごとき故、それで 6)その名は愛となった。愛はすなわち結である 7)故に、それで愛結と名づけたのである、と。

8)解曰：所縁境において、愛 9)させ、染ぜさせ、執せさせ、縁ぜさせ、10)撰せさせ、制せさせ、護させる故に、それで 11)その名は愛となった。「三界にある貪」と 12)云ったのは：依や縁を約してである。13)而して三界に依もてる、及び三 14)界 (に) 縁もてるというのである。また譬喩 15)によって愛の行相を顯す。謂わく膠漆が 16)觸れるほどに徐々に執するごとく、17)愛もまたそのように、染まる 18)ほどに徐々に執せられる。「愛はすなわち結 19)である故に」と云ったのは、他の 20)部の説くところを遮る。他の部のものらは 21)次のように説く：愛は而して心にあるものである。22)結は決して心にあるものではない。愛のその結故に、23)と。今、結よりほかに別に愛が有ることないのを顯すために、24)それで、愛はすなわち 25)結である故にそれで愛結と名づけた、と。

24V3-4 üc uyuş-lardağı az-lar は『入阿毘達磨論』にみえる「三界貪」(同 p. 982c l. 22) のウイグル語譯である。ここで az は「貪」に当たっている。

24V4 botuldurtači yapşınturdači は『入阿毘達磨論』にみえる「染著」(p. 982c l. 22) のウイグル語譯である。botuldurtači は「染」に、yapşınturdači は「著」に對應している。『俱舍論』では「染」に当たる語は bodulmaq であり、「著」は yapşınmaq の形で出てくる。Cf. 庄垣内(2008: 528, 722); Shōgaito (2014: 237, 297)。

24V5 yaru yelim は DLT453.9 にも同じ形で出てくる。Dankoff (1982-1985, II: 156) は‘Fish glue’と英譯している。ここでは『入阿毘達磨論』にみえる「融膠」(同 p. 982c l. 23) のウイグル語譯として使われている。この言葉は現代ウイグル語



でも *yar yelim* の形で存続している。*ča saqiz* の *saqiz* 「樹脂」は知られているが、*ča* が現れるのはこの文献がはじめてであり、語源は今のところ分からない。全體で漢語の「漆」を譯している。24v16 にも同じ形で出てくる。

24V14 *yöläs(ü)rüg* は *ywl'srwk* と書かれている。

24V16-17 *näcä näcä büridmiš-čä anča anča yapışmıš-ı täg* では、*näcä näcä ... anča anča* を用いて比較副詞節が構成されている。『實義疏』や他の文献にも出てくる。

Cf. 庄垣内(2008: 587); Erdal (2004: 503)。

漢文原文：恚結者。謂五部瞋。於有情等樂爲損苦。不饒益相如辛苦種。故名爲恚。恚卽是結故是名恚結。(同 p. 982c ll. 24-26)

- 26) 論曰恚結者 *övkä qoşuy ärsär : qaltı beş*  
 27) *bölük-lärdäki övkä ärür : tınly-larta qurıldurmaq*  
 28) *ängädmäkig qılturyalı sävtürdäci ärip : asıy-sız*  
 29) *tusu-suz töz-lüg ärür : qaltı qatıryan uruy-in tæg*  
 30) *açıy üçün : anın adı bolmiş ärür övkä qoşuy*  
 31) *tep : övkä qayu ärsär qoşuy ymä ol oq üçün*  
 32) *anın adamış ärür övkä qoşuy tep : 解曰此有情*  
 33) *munda tınly tegüci sav üz-ä adırur qaqıy-ta öñi*  
 34) *öñi-sin : qaqıy tınly tınsız orun-larta ävrilür :*  
 35) *qurılduryalı ängädgäli sävmäk tep temiş-i ärsär : toqı*  
 36) *-maq toqlamaq qınamaq qızgıt-lamaq : käd ärsär :*  
 37) *ölürmək ängädmək-kä tägi-ki-si ärür : asıy-sız*  
 38) *tusu-suz töz-lüg tep temiş-i ärsär : tınly orun*  
 39) *-ta : boş taş köñül-in yertürüp tidtürüp : qayvılan*  
 40) *-turmadın ödürmätin : kim bulturmaq üçün asıy-ıy :*  
 41) *anča yöläşürüg üz-ä yörä söz-lämiş ärür : qaltı*  
 42) *{qaltı} qatıryan-niñ uruy-i qoluña-si : ulun-ı*  
 43) *budıy-ı yalpıryaq-ı süçig tadıy-lıy bolmamış-ı tæg*  
 44) *övkä ymä ök yänä ançulayu oq : tılday-ı tüş-i barça*

26)論曰：恚結は謂わく五 27)部にある瞋である。有情らに損苦を 28)なすことを楽しむもので、29)不饒益の相もてるものである。ちょうど苦種によるごとく 30)辛い故に、それでその名は恚結となったのである。31)恚はすなわち結である故に 32)それで恚結と名づけたのであると。

解曰：33)ここでは「有情」という言によって怒りに各々を區別する。34)怒りの有情は無息の地に轉回する。

35)「損苦することを樂しむこと」と云ったのは：打つ36)こと、鞭打つこと、責めること、罰することが甚だしいなら、37)死なせ苦しめることへ至るものである。

38)「不饒益の相もてるもの」と云ったのは：有情39)處で自由の心を厭捨して、對向(?)40)することなしに、益を得ることの故に、41)そのような譬喩を以て解釋したのである。

42)ちょうど苦種の芽や茎や43)枝や葉が甘くなかったごとく、44)恚もまたそのようである。因果は皆

24V26-27 *beş bölük-lärdäki övkä* は『入阿毘達磨論』に見える「五部瞋」(p. 982c l. 24)のウイグル語譯である。「五部」とは四諦と修道とをいう(中村1981: 374bc)。

24V27-28 *qurıldurmaq ämgädmäk* 「損苦」。『實義疏』では *quruldurmaq ämgädmäk* の形であらわれる。Cf. 庄垣内(2008: 628)。

24V29 *qaltı qatırğan uruγ-in täg* は『入阿毘達磨論』に見える「如辛苦種」(p. 982c l. 25)のウイグル語譯である。*qatırğan uruγ-i* は「苦種」(Skt. *duḥkha-bīja*)に当たる。構造から見ると植物の名前であり、*qatır* に-*ğan* を付けて作られた語である。*qatır* と言う形式の語としては「残酷な、ひどい」などの意味を表す *qadır* がある (cf. EDPT 63b) が、それがこの語のベースになっているのかははっきり分らない。*qatırğan* は TT VIII A39 にも現れ、そこでは‘Akazia’と譯されている。植物の名前としては「針槐」を指す可能性が大きい。一方『俱舍論』(*Kośa* 35R20)では *ž-imba qatırğan* が「賃婆」(Skt. *nimba*)に對應している。

24V37 *ölmäk ämgädmäk-kä tägi-ki-si ärür* 「死なせ苦しめることへ至るものである」。後置詞 *tägi* の後に轉向詞 *converter* と呼ばれる-*ki* を付ける例はしばしば出てくるが (Erdal 2004: 186-188)、その後には所有接尾辭-*si* をつけるのはこの文獻に限られる。

24V39 *yertürüp tidtürüp* 「厭捨して」。それぞれ *yer-/er-* ‘to despise, criticise etc.’ と *tit-* ‘to renounce, give up’ の使役形の副動詞形。Cf. Erdal (1991: 814, 811)。

24V39-40 *qayvılan-turmadın ödürmätin* 「對向(?)することなしに」。 *qayvılan-tur-* は『實義疏』に見られる *qayvılan-* 「對する」(cf. 庄垣内 2008: 622) の使役形か。

[23R]

漢文原文：慢結者。謂三界慢。以自方他德類差別。心恃舉相說名爲慢。如傲逸者凌箴於他。(同 p. 982c ll. 26-27)

- 1) oq ol temäk-niñ yörüg-i öñdün yörmiš täg tetir tep
- 2) 論曰 küvänc qoşuy ärsär qlti üç uyuş-lar-taqi küvänc
- 3) ärür : kántü öz-i oxšadip yañyarıq adın-lar-niñ ädgü
- 4) ädräm uyuş oxšadıy üz-äki adirt-in köñül-üg aña
- 5) tayaq-lıy-ın örü kötitdürtäçi töz-lügüg s[ö]z-lamış
- 6) ol adi bolur küvänc tep qlti bayraıu simtaı-lar
- 7) ärsär : sadyamiš yumurmış-ı täg adın-larıy tep 解曰
- 8) bayraıu simtaı bolmaq ärsär qlti boş simtaı bolmaq
- 9) ärür : simtaı ärsär ara yova satıyamaq ärür yumumaq ärsär
- 10) y(e)nikläyü uçuz-layu yumumaq ärür täñläp ülgüläp öz
- 11) -li adın-lı-niñ çxšapt-lıy yoriq-ta ulatı ädgü-lär
- 12) -in köñül-tä turıyurup kürägürmäk bayraıurmaq-ıy sadyatur
- 13) yumurdur üçün adın-lar-ıy anın adi bolmiş ol küvänc
- 14) qoşuy tep adın-lar-ın girant üz-ä bilgäli bolur
- 15) tep :

23R1)まさに・・・であると云うことの義は以前に釋したごとしと言うと。

2)論曰：慢結は謂わく三界にある慢で3)ある。自らが他らの4)徳類にある差を比べて、5)それに依て心を持ち擧げる相あるものを説いたのである。6)その名は慢となる。ちょうど傲逸が7)他らを凌箴したごとし、と。

解曰：8)傲逸となるはちょうど自由な放逸となること9)である。放逸は欺き凌ぐことである。箴することは10)輕侮して蔑することである。比量して自11)と他との戒行等の徳12)により心に懦ざること傲ざることを起こして13)他らを凌箴させる故にそれでその名は慢結となった。14)他らを文によって知り得る、15)と。

23R3-4 kántü öz-i oxšadip yañyarıq adın-lar-niñ ädgü ädräm uyuş oxšadıy üz-äki adirt-in は漢文原文中の「以自方他徳類差別」（自を以て他の徳類に<sup>あた</sup>方りて差別する）に對應する。oxšadip yañyarıq は oxšat- yañyar- 「比類する」の副動詞形 oxšadip yañyarıp の誤寫と考える。Cf. oxšatmaq yañyarmaq 「比類」(*Koşa* 25V46)。

23R6 bayraıu 「傲」については Erdal (1991: 162) を参照。

23R7 sadyamiš yumurmış-ı täg は『入阿毘達磨論』に見える「凌箴」(同 p. 982c l. 27) のウイグル語譯であるが、この形で出てくるのは初めてである。yumur-は「無視する」という意味の動詞 yumu-の使役形と推定される。yumu-はこの文献の23R9 に出てくる。

23R12 kürägürmäk は『俱舍論』では kürägürmäk tuşıqmaq として現れ、漢語の「懦

逸」を譯している (cf. Shōgaito 2014: 252) が、bayrayurmaq 「憍ずること」と一緒に出てくるのは初めてである。

23R12-13 sadyatur yumurdur は sadyat- yumurt- のアオリストであり、それぞれ 23R7 に現れる sadya-, yumur- の使役形である。「輕視される、無視される」を意味する。sadyatur yumurdur は 23V3 にも出てくる。

23R14 girant < Toch. B *granth* < Skt. *grantha* 「文」。

漢文原文：此復七種。一慢二過慢三慢過慢四我慢五増上慢六卑慢七邪慢。(同 p. 982c ll. 28-29)

- 15) 論曰 munta yānā yeti türlüg küvānč-lār ol  
 16) 一 aṅilki küvānč 二 ikinti artuq küvānč 三 üçünč  
 17) küvānč-tā arduq küvānč 四 törtünč mn küvānč  
 18) 五 bešinč umunč küvānč 六 altinč asir-a küvānč  
 19) 七 yetinč tärs küvānč ärür tep : 解曰 munda qavir-a  
 20) -sınča temiš ol adın qayu bar-in-ča uṅur-in  
 21) qlti munta basa ken uqıdur tep

15)論曰：ここに復た、七種の慢がある。16)第一は慢、第二は過慢、第三は17)慢過慢、第四は我慢、18)第五は増上慢、第六は卑慢、19)第七は邪慢である、と。

解曰：ここでは他の所有ゆる場合を畧して20)述べたのである。21)ちょうどこれよりさらに後に顯わす、と。

23R15 yeti türlüg küvānč-lār は「七種の慢」、「七種慢」に当たる。以下 23R16-19 に七種の慢の名前が出てくる。「一慢」は aṅilki küvānč、「二過慢」は ikinti artuq küvānč、「三慢過慢」は üçünč küvānč-tā arduq küvānč、「四我慢」は törtünč mn küvānč、「五増上慢」は bešinč umunč küvānč、「六卑慢」は altinč asir-a küvānč、「七邪慢」は yetinč tärs küvānč と譯されている。

漢文原文：謂因族姓財位色力持戒多聞工巧等事。若於劣謂。已勝。或於等謂己等。由此令心高舉名慢。若於等謂己勝。或於勝謂己等。由此令心高舉名過慢。若於勝謂己勝。由此令心高舉名慢過慢。若於五取蘊執我我所。由此令心高舉名我慢。若於未證得預流果等殊勝德中謂己證得。由此令心高舉名増上慢。若於多分族姓等勝中謂己少劣。由此令心高舉名卑慢。若實無德謂己有德。由此令心高

舉名邪慢。如是七慢總名慢結。(同 p. 982c l. 29 - p. 983a l. 10)

- 21) 論曰 kŭvānč
- 22) ärsär qlti uγuš töz äd tavar orun yurt öŋ
- 23) körk küč kösün čxšapt tutmaq üküš äšidmāk
- 24) uzanmaq ädrām-tä ulatī sav-lar tīltay-īnta antay
- 25) yänä asīr-a-lar-ta kāntü öz-üm yeg mn tedürtüp
- 26) azu ymä täŋ-lär-tä kāntü öz-üm täŋ mn tedürüp
- 27) munuŋ uγur-īnta kim köŋül-üg örü kötidürtäčig
- 28) adamīš ol kŭvānč tep anday yänä täŋ-lär-tä kāntü
- 29) öz-üm yeg män tedürüp azu-ča ymä yeg-lär-tä
- 30) kāntü öz-üm täŋ mn tedürüp munuŋ uγur-īnta kim
- 31) köŋül-üg örü kötidürtäčig adamīš ol artuq kŭvānč
- 32) tep : 若於五取蘊中 anta yänä beš tutyaq yŭkmāk-tä
- 33) adqanīp mn māniŋ-lig ol tep munuŋ uγur-īnta kim köŋül
- 34) -üg örü kötidürt {tä} čig adamīš ol mn kŭvānč tep antay yänä
- 35) tanuq-lamaduq bulmaduq sordapan qutīn-ta ulatī yeg adruq
- 36) ädgü-lär-tä kāntü öz-üm tanuq-ladīm buldum tetürüp munuŋ
- 37) uγur-īnta kim köŋül-üg örü kötidürtäčig adamīš
- 38) ol umunč kŭvānč tep antay yänä üküš ülüš-inčä
- 39) töz uγuš-ta ulatī-lar üz-ä yeg-lär-tä kāntü
- 40) öz-üm az-qy-a qodī asīr-a mn tetürtäčig adamīš
- 41) ol asīr-a kŭvānč tep anday yänä čin kertü ädgü
- 42) -süz ädrām-siz ärip kāntü öz-üm ädgülüg ädrām
- 43) -lig mn tetürüp munuŋ uγur kim köŋül-üg örü
- 44) kötidürtäčig adamīš ol tärs kŭvānč tep
- 45) munī munčulayu yeti türlüg kŭvānč-lär-niŋ yumdaru
- 46) adī bolur kŭvānč qoşuy tep 解曰 kŭvānč ärsär
- 47) kŭvānč bar-qa tayaq-līγ-in ävrilür tayanyuluq
- 48) nom-i čin kertü bar yoq ärmäz ymä ök äzüg
- 49) -in igit-in aşmaq ärmäz 又 yaŋluq-inčä

[23 Verso]

- 0) ikinti bir ygrmi
- 1) üsdämīš ärmäz ymäter nädägin tep tesär kāntü öz-i
- 2) qayu bar bolmīš nomī üzä kim köŋül-üg örü ködit
- 3) -türüp sadyatur yumurdur : üçün adīn-lar-īγ : anīn adī bolmīš

- 4) ol küvānč tep bu bolur iki türlüg aņilki qodī asīr-a
- 5) -lar-ta tuymış ikinti tāņ-lār-tā tuymış : köņül nāčā
- 6) yaraši adqanŷu-lar-ta bolsar ymā kim köņül-üg örü kōdi
- 7) -tür üçün uqitmiş ol küvānč tep ad üz-ā : 二過慢
- 8) ikinti artuq küvānč ārsār adīn-lar-niņ kāntü öz
- 9) -i-niņ ādgü-lig ādrām-lig yoriq-i birlā ol ( 卜 ) bir tāg
- 10) ārip inčip kāntü öz-üm-nüņ-i arduq ol tedürüp
- 11) kim köņül-üg örü kōdittürtāči azu-ča ymā adīn
- 12) -lar-niņ kāntü öz-i-niņ-tā yeg ārip inčip kāntü
- 13) öz-üm-niņ tāņ ol tetürtāčig adamış ol arduq
- 14) küvānč tep : 慢過慢者 küvānč-tā arduq küvānč
- 15) ārsār kāntü öz-i-niņ ādgü-si ādrām-i qodī asīr-a
- 16) ārip kāntü öz-üm-nüņ-i adīn-lar-niņ-inta yeg
- 17) ol tedürüp biligsiz üz-ā köņül-üg örttāčig
- 18) adamış ol küvānč-tā arduq küvānč tep : 我慢者
- 19) mn küvānč ārsār mn ol māniņ-lig ol tep adqan[tači]
- 20) ārūr bar āt'öz körüm . bu mn ad{q}aŷ-qa tayaq-liŷ-in
- 21) 又 muņa tayaq-liŷ-in mn ol tep adqanip ymāter
- 22) aņa tayaq-liŷ-in örü tuŷurdačiy (○) (kōtidtürtāčig) adamış ol mn
- 23) küvānč tep qlti sordapan-lar taryaru tükādmiš-kā
- 24) mn ad{q}aŷ-iŷ anīn nāčā tükāl-lig bolsar ymā mn
- 25) küvānč-kā inčip yügārü qılmaz-lar muni munčulayu
- 26) mn küvānč yintām öz orun-ta oq āvrilür nāņ
- 27) yaņyarmaq oxšatmaq üz-ā ārmāz adīn-lar-qa
- 28) 若於未證得預流 antaŷ yānā tanuq-lamaduq bulmaduq
- 29) sortapan qufīn-ta uladī yeg adruq ādgü-lār-tā
- 30) tep temiš-i ārsār ulatī tegüči sav-ta tudulur
- 31) sakridagam anagam arxant quđi selu dyan-lar
- 32) apramane-lar öņsüz-lār tüz-ün yol nirvan munta
- 33) -ta ulatī-lar-niņ adī bolur arduq yeg adruq
- 34) nom tep qlti munta-ta uladī nom-lar-iŷ bulmaduq
- 35) ārip buldum tedürüp kim köņül-üg örü kōdit
- 36) -türtāčig adamış ol umunč küvānč tep :
- 37) 若於多分 antaŷ ymā üküš ülüš-inčā töz
- 38) uŷuš-ta uladī-lar üz-ā yeg-lār-tā tep temiš
- 39) -i ārsār ulatī tegüči sav-ta almiš kargāk ād
- 40) tavar orun yurt öņ körk küč kōsün čxšapt

- 41) tutmaq üküš äšidmāk uzanmaq ädrām-tā ulatī  
 42) -larīy äd tavar orun yurt öñ körk küč kösün  
 43) ärür äv-tā turdači kiši-lär-niñ (aýır-layuluq) yeg adruq  
 44) nom-lar-ï çxšapt tutmaq üküš äšidmāk ärür  
 45) äv-tin ünmiš kiši-lär-niñ aýır-layuluq yeg  
 46) adruq nom-lar-ï munta-ta ulatī yeg adruq  
 47) nomluq-lar-ta kântü öz-üm az qy-a qodī  
 48) asir-a mn tettürüp kim köñül-üg örü  
 49) kötitdürtäçig adamış ol asir-a küvänc

21) 論曰：慢 22)は謂わく族姓財位 23)色力持戒多聞 24)工巧等の事に因て、そのように 25)また劣らにおいて己自身われは勝と謂わせ、26)或いは等らにおいて己自身、われは等しいと謂わせて、27)此に由り心を高擧ならしむるものを 28)慢と名付けた。そのようにまた、等らにおいて 29)己自身を我れ勝なりと云わせて、或はまた勝において 30)己自身を我れ等なりと云わせてこれに由て 31)心を高擧ならしむることを過慢と名づけた。

32)そのようにまた、五取蘊において、33)我我所なりと執して、これに由て心 34)を高擧ならしむるものを我慢と名づけた。そのようにまた、35)未だ証得していない預流果等の殊勝の 36)徳において己自身が証得したと云わせて、此に 37)由て心をして高擧ならしむるを 38)増上慢と名づけた。そのようにまた、多分としての 39)族姓等における勝らにおいて己 40)自身が少劣なりと云わせるものを 41)卑慢と名づけた。そのようにまた、實は 42)無徳であるのに、己自身我れ有徳なりと 43)云わせ、此に由 {て} 心を高擧ならしむるものを 44)邪慢と名づけた。45)このようにして七種の慢は總じて 46)その名が慢結となる、と。

解曰：慢は 47)慢が有ることに依て轉ずる。所依の 48)法は眞實有無ではない。また 49)虚偽により増大させることではない。又、偽りとして

### 23V0)第 2 卷 11

1)増大するものではない、ともいう。如何にしてと言え、自身は 2)所有る法によって心を高擧 3)ならしめて他らを凌箴させる故に、それでその名は 4)慢となった。これは二種がある。第一は卑劣 5)らに生じたもの、第二は等らに生じたものである。心が如何に 6)相應しい境らに在れども心を高擧ならしめる 7)故に慢という名によって立てた。8)第二の過慢は他らのものが彼ら自身の 9)徳行と同一で 10)あるのに、而して我自身のものが過なりと云わせて、11)心を高擧ならしめるもの、或いは他 12)らのものが彼ら自身のものより勝であるのに、而して自分 13)自身のものと等しいと云わせるものを 14)過慢と名付けたのである。慢過慢 15)は自身の徳が卑劣で 16)あるのに、己自身のものが他らのものより勝 17)

なりと云わせて無智によって心を起こすものを 18)慢過慢と名づけたのである。19)我慢は我すなわち我所なりと縁するもので 20)ある。有身見、これは我執に依て 21)又、これに依て我なりと縁じてともいう、22)それに依て高擧ならしめるものを我慢と名づけた。23)猶、預流らが我執を斷ち已えたことに對して、24)それ故如何に圓滿であっても、我 25)慢に對して而してそれらは現前としない。このごとく、26)我慢は唯、自所おいてのみ轉ずる。けっして 27)他らへ對して比量することによるのではない。

28)そのようにまた、「未だ証得していない預流果 29)等の殊勝の徳において」30)と云ったが、「等（・・など）」と云う言において 31)一來・不還の阿羅漢果が攝せられる。靜慮ら、32)無量ら、無色ら、聖道、涅槃、これ 33)らの名が大いなる殊勝（倍勝？）の法となる。34)猶、これらの法を得ることなしに、35)我れは得たと云わせて、高擧なら 36)しめるものを増上慢と名づけた。37)そのようにまた、「多分としての族 38)姓等における勝らにおいて」と云った 39)が、「等（・・など）」という言において 40)財位・色力・持戒・41)多聞・工巧等を取らねばならない。42)財位・色力 43)は在家の人々の（重んずるべき）殊勝の 44)法である。持戒・多聞は 45)出家の人々の重んずるべき殊 46)勝の法である。これ等の殊勝の 47)法において、我れ自身は少々劣なりと 48)云わせて高 49)擧ならしめるものを卑慢（と）名づけた。

23R23 *čxšapt tutmaq üküš äšidmāk* は「戒をもつこと（と）多く聞くこと」を意味し、漢文原文の「持戒多聞」（同 p. 983a l. 1）を譯したものである。

23R32 *beš tutyaq yükmāk* は漢文原文の「五取蘊」（同 p. 983a ll. 4-5）にあたる。同じ表現は『實義疏』でも「五取蘊」の譯として見られる。Cf. 庄垣内(2008: 518)。

23R35 *sordapan qutī* は漢文原文の「預流果」（同 p. 983a l. 6）を譯したものであり、同じ表現は『實義疏』にも見られる。Cf. 庄垣内(2008: 641)。sordapan (sortapan) < Skt. *srota-āpanna* 「預流」。

23R36 *kāntü öz-üm* は漢文原文の「已」を「己」に讀み間違えたものである。本來は *tükätim* となる。

23R38 *üküš ülüš* は漢文原文の「多分」（同 p. 983a l. 7）を譯したものであり、同じ表現は『實義疏』にも見られる。Cf. 庄垣内(2008: 711)。

23R40 *qodī asir-a* は漢文原文の「少劣」（同 p. 983a l. 8）を譯したものである。『俱舍論』には漢語「劣」を *qodī asīra* で譯した例が見られる。Cf. Shōgaito (2014: 267)。

23R43 *kim* は *-inta (-ynt')* の誤寫である。

23R45 *yumdaru* は動詞 *yumdar-*「總じる」の副動詞形であり、『實義疏』や『俱舍論』でも「總じて、通して」のように副詞的に用いられている。Cf. 庄垣内(2008: 743); Shōgaito (2014: 303)。

23R47 *tayanıuluq* が漢語「所依」に對應する例は『實義疏』や『俱舍論』にも見



られる。Cf. 庄垣内(2008: 657); Shōgaito (2014: 276)。

23V20 行目と 24 行目の *adaq* は *atqay* の誤寫。

23V21 *muja tayaq-līy-in* 「これに依するため」。 *muja* は *maja* の書き間違いにも見えるが、23V22 の *aṅa* と対照して見ると、正しい形であることが明らかである。

23V22 *kōditdürtäčig* は *tuyurdačiy* (?) を訂正して行間に書き込まれている。

23V31 *sakridagam* < Skt. *sakṛd-agamin* 「一來 (果)」（この迷いの世界に一度だけでもどって来る聖者）。 *anagam* < Skt. *anagamin* 「不還 (果)」（もはや二度と慾界に還らない聖者）。

23V31 *selu* 「靜慮」については 22V21-23 の注を参照。 *dyan* はその類名である。同じ表現は『實義疏』や『俱舍論』にも見られる。Cf. 庄垣内(2008: 637); Shōgaito (2014: 271)。

23V32 *apramane* < Toch. B *apramaṇi* < Skt. *apramāṇa* 「無量」。

23V33-34 *arduq yeg adruq nom* は「大いなる殊勝の法」と譯することができるが、ここでは一來 (*sakridagam*)・不還 (*anagam*) の阿羅漢果 (*arxant qudī*)、靜慮 (*selu dyan-lar*)、無量 (*apramane-lar*)、無色 (*öṅsüz-lär*)、聖道 (*tüz-ün yol*)、涅槃 (*nirvan*) などを指している。

23V43 *ayir-layuluq* 「重んずるべき」は行間に書き加えられている。

### 参考文献

阿依达尔·米尔卡马力 (2015) 『回鹘文诗体注疏和新发现敦煌本韵文研究』上海：上海古籍出版社。

Clauson, Sir Gerard (1972) *An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth-Century Turkish*. Oxford. [EDPT]

Dankoff, Robert and James Kelly (1982-1985) Maḥmūd al-Kāšgarī, *Compendium of the Turkic Dialects (Dīwān Luḡāt at-Turk)*, 3 vols. Harvard University Printing Office. [DLT]

Elmalı, Murat (2015) *Eski Uygurca Gramer Terimleri. Vibakti - samaz*. İstanbul: Kesit Yayınları.

Erdal, Marcel (1991) *Old Turkic Word Formation I/II*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

Erdal, Marcel (2004) *A Grammar of Old Turkic*. Leiden - Boston: Brill.

百濟康義 (1980) 「入阿毘達磨論の註釋書について」『印度學佛教學研究』29/1: 72-77 (411-406)。

百濟康義 (1988) 「サンスクリット文法のウイグル語譯例一名詞變化 8 格と名詞複合語 6 種に關して一」『龍谷大學論集』431: 55-83。

中村元 (1981) 『佛教語大辭典』東京書籍。

- 小川宏 (1985) 「北俱盧洲考」『印度學佛教學研究』33/2: 707-710.
- Röhrborn, Klaus (1996) *Die alttürkische Xuanzang-Biographie VIII. Nach der Handschrift von Leningrad, Paris und Peking sowie nach dem Transkript von Annemarie v. Gabain* (Veröffentlichungen der Societas Uralo-Altaica 34.5). Wiesbaden: Harrassowitz Verlag
- 庄垣内正弘 (2003) 『ロシア所藏ウイグル語文獻の研究－ウイグル文字表記漢文とウイグル語佛典テキスト－』(ユーラシア古語文獻叢書 1) 京都大學大学院文學研究科.
- 庄垣内正弘 (2004) 「ウイグル文入阿毘達磨論の注釋書斷片」In: Fujishiro Setsu (ed.) *Approaches to Eurasian Linguistic Areas* (CSEL 7), 271-295 + 6pls. Kobe City College of Nursing.
- 庄垣内正弘 (2008) 『ウイグル文アビダルマ論書の文獻學的研究』松香堂.  
[*Tattvārthā*]
- 庄垣内正弘 (2009) 「ロシア所藏のウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書斷片」久保智之, 林徹, 藤代節編『チュルク諸語における固有と外來に関する総合的調査研究』(CSEL 15), 91-128. 九州大學人文科學研究院言語學研究室.
- Shōgaito, Masahiro (2014) *The Uighur Abhidharmakośabhāṣya : preserved at the Museum of Ethnography in Stockholm* (Turcologica 99), Wiesbaden: Harrassowitz Verlag. [*Kośa*]
- Shōgaito, Masahiro, Setsu Fujishiro, Noriko Ohsaki, Mutsumi Sugahara, Abdurishid Yakup (2015) *The Berlin Chinese Text U 5335 Written in Uighur Script: A Reconstruction of the Inherited Uighur Pronunciation of Chinese* (Berliner Turfantexte XXXIV), Brepols: Turnhout.
- 高楠順次郎, 渡邊海旭編 (1924-1935) 『大正新脩大藏經』大正新脩大藏經刊行會.  
[大正]
- 『國譯大藏經論部第十三卷』國民文庫刊行會 1921 (第 3 版 1936).

## Glossary

## A

ačiy

「苦い、辛い」 24V30 Skt. *duhkha*

ad

see at

ada

ada tudaγ 「災い」 24R48

ada-

see ata-

adın

「餘」「他」 21V10, 21V12, 23R20, 24R35,  
24V19, 24V20

adın-lariγ 22R28, 23R13, 23V3, 23R7

adın-lar-in 23R14

adın-lar-niγ 23R3, 23V8, 23V11

adın-lar-niγ-inta 23V16

adın-lar-qa 23V27

adın-li-niγ 23R11

adür-

「差別する」「別ける」

adür-a 21R17

adürur 24V33

adüril- ~ atüril-

「差別される」「異なる」「別れる」

adürilmış 22R5, 22R17

atürilmış 22V1

adırt

「差別」「不同」「異」「別」

adırt-in 23R4

atürdi 24R2

adqay

see atqay

adqan-

see atqan-

adqanγu

see atqanγu

adqantur-

see atqantur-

adruq

「差別」

yeg adruq 「殊勝」 23R35, 23V29, 23V33,  
23V43, 23V45, 23V46

aγür

「重」

aγür ayay 「恭敬」 aγür-in ayay-in 21V1, 21V15

aγür-in ayamış-in yükünür 「敬禮する」 21V14

aγürila-

aya- aγürila- 「尊敬する」「恭敬する」

ayayu aγürilayu yükünür 「敬禮する」 21V5,  
21V9

aγürilayuluq 23V43, 23V45

al-

「取る」「受ける」「得る」

almış 23V39

alqinču

「盡」 21R4

alqu

「すべて」「一切」「諸」 21R9, 21R10, 21V18,  
24R35, 24R38

altı

「六」 22R30, 22V37

altı türlüγ 「六種の」 22R19, 22R20, 22R22,  
22R23, 22R36

altı otuz 「二十六」 24R16, 24R17

altıγu

「六」(集合)

aldıγu-si 22R14

altünč

「第六」 23R18

- altmiš  
「六十」 24R15
- altun  
「金」  
altun-uy 22R32
- amranmaq  
「欲」 22V12, 22V15, 24R11  
amranmaq-ta 22V7
- amtī  
「今」「正に」 24V23
- anagam  
「不還(果)」 < Skt. *anagamin* 23V31
- anasirava sanvar  
「無漏律義」 < Skt. *anāsrava-saṃvara*  
22V33, 22V35
- anča  
「そのような」「このような」 24V41  
anča anča 「漸次」「徐々に」 24V16, 24V18
- ančulayu  
ančulayu oq 「そのような」「そのように」  
(如是) 21V16, 24V17, 24V44
- anday  
see antay
- andīn  
(ol の奪格形) 「それから」 21R14
- aṇa  
(ol の与格形) 「それへ」 21R14, 23R4, 23V22
- aṇayu  
「別」 22R21, 24V23
- aṇilki  
「第一」「一」 23R16, 23V4
- anī  
(ol の対格形) 「それを」 21V5, 21V6, 21V9,
- 21V10  
anī ücün 「それ故」 21R5, 21V12, 24R27  
anī üz-ä 「それによって」 21R14
- anin  
(ol の具格形) 「それで」「故に」 21R1, 22R2,  
22V38, 23R13, 23V3, 23V24, 24R4, 24R45,  
24R47, 24V1, 24V5, 24V7, 24V10, 24V24,  
24V25, 24V30, 24V32
- aniṇ  
(ol の属格形) 「そのの」 24R7, 21R14
- anta  
(ol の位格形) 「そこに」「その中に」 21R14,  
22R13, 22R40, 22R41, 22V17, 23R32
- antay  
「そのとおり」(然) 「そのよう」 23R24,  
23R34, 23R38, 23V28, 23V37  
anday 23R28, 23R41
- apramane  
「無量」 < Skt. *apramāṇa*  
apramane-lar 23V32
- aqīysiz  
「無漏」 22V33
- ar-  
ar- yov- 「欺く」  
ara yova 23R9
- araqī  
araqī dyan 「中間定」 22V22
- arduq  
see artuq
- arıy  
「淨」 21V2, 21V9, 21V14
- arquči  
arquči iş 「媒嫁事」 22R28
- artuq ~ arduq  
「大いに」「倍」「過」 23R16, 23V8

- arduq 23R17, 23V10, 23V13, 23V14,  
23V18, 23V33  
artuq 23R31
- arxant  
「阿羅漢」 < Skt. *arhant* 23V31
- asanvar  
「不律義」 < Skt. *asaṃvara* 22V44
- asiy  
「利」  
asiy-iy 24V40  
asiy-siz tusu-suz 「不饒益」 24V28, 24V37
- asira  
「下」 23R18, 23R40, 23R41, 23V15, 23V48,  
23V49  
asir-a-lar-ta 23R25, 23V4
- aş  
「食物」  
aş-iy 22R35, 22R35  
aş-ta 22R9
- aş-  
「増大させる」  
aşmaq 23R49
- at  
「名」  
ad üz-ä 「名によって」 22R21, 23V7  
adi 22R2, 22R4, 22R8, 22R9, 22R12,  
22R30, 22R36, 22R43, 22V4, 23R6, 23R13,  
23R46, 23V3, 23V33, 24R45, 24R47, 24V1,  
24V1, 24V6, 24V11, 24V30  
ati 21R9, 21V13
- ata- ~ ada-  
「名づける」「稱する」  
adamış 22R18, 22R22, 22V1, 22V38,  
23R28, 23R31, 23R34, 23R37, 23R40,  
23R44, 23V13, 23V18, 23V22, 23V36,  
23V49, 24R36, 24V7, 24V25, 24V32  
atadi 21R2
- atir-
- see adir-
- atiril-  
see adiril-
- atqay ~ adqay  
「縁」「所縁」「對象」「計」「計度」  
män atqay 「我執」 mn ad{q}ay-iy 23V24, mn  
ad{q}ay-qa 23V20  
adqay-in 24V12  
adqay-liy 24V14
- atqan- ~ adqan-  
「縁ずる」「執する」「計する」  
adqan[tači] 23V19  
adqanip 23R33, 23V21  
adqanyuluq 24V8
- atqanyu ~ adqanyu  
「境」  
adqanyu-larta 23V6, 24V8
- atqantur- ~ adqantur-  
「縁ぜさせる」  
adqanturur 24V9
- aya-  
「尊ぶ」「敬う」  
ayamiş-in 21V15  
ayayu ayırlayu yükün- 「敬禮する」 21V5,  
21V9  
ayayuluq 21R6, 21R7
- ayay  
ayir ayay 「恭敬」  
ayir-in ayay-in 21V2, 21V15
- ayiy  
「惡」「不善」  
ayiy-in 24R21, 24R22, 24R28
- az  
「食」「愛」 24R7, 24R14, 24V6, 24V6, 24V11,  
24V11, 24V11, 24V17, 24V18, 24V21,  
24V24, 24V24  
az qoşuy 「食結」「愛結」 24R40, 24V3, 24V7,  
24V25

- az-lar 24V4  
 az-niņ 24V15, 24V22  
 amranmaq az 「欲食」  
 amranmaq az-qa 22V15  
 az-qa 22V43
- az  
 「少ない」 21R7
- azlantur-  
 「愛させる」  
 az-landurur 24V8
- azqya  
 「少々」「少ない」 23R40, 23V47
- azu  
 「或は」「爲」 23R26
- azuča  
 「或は」 23R29, 23V11, 24R35, 24R45, 24R47
- ažun  
 「趣」「生」  
 až-un-larta 24R44
- Ä
- äd  
 「物」「事」「體」  
 äd tavar 「財」 23R22, 23V39, 23V42  
 äd-lär 24R6
- ädgü  
 「徳」「善」「善哉」 23R3  
 ädgü-lär-i 21R6  
 ädgü-lär-in 23R11  
 ädgü-lär-tä 23R36, 23V29  
 ädgü-lig 23V9  
 ädgü-lüg 23R42  
 ädgü-si 21R12, 23V15  
 ädgü-sin 24R21, 24R22, 24R27  
 ädgü-si-niņ 21V13  
 ädgü-süz 23R41
- ädräm  
 「徳」「功能」 23R4  
 ädräm-i 23V15
- ädräm-lari 22V9  
 ädräm-lig 23R42, 23V9  
 ädräm-siz 23R42  
 ädräm-tä 23R24, 23V41
- ämgäk  
 「苦」 24R46  
 ämgäk-tä 22V39
- ämgät-  
 「損ずる」  
 ämgädgäli 24V35  
 ämgädmäkig 24V28  
 ämgädmäk-kä 24V37
- är-  
 「…である」  
 ärip 22V6, 23R42, 23V10, 23V12, 23V16,  
 23V35, 24V28  
 ärmäz 21R3, 21R8, 21R10, 22V38, 22V43,  
 23R48, 23R49, 23V1, 23V27, 24V22  
 ärmäz-in 24V24  
 ärsär 21R2, 21R3, 21R5, 21R8, 21R9, 21R9,  
 21R11, 21R15, 21R17, 21V16, 21V17,  
 21V18, 22R11, 22R19, 22R24, 22R39,  
 22V2, 22V12, 22V19, 22V21, 22V23,  
 22V31, 22V33, 22V36, 22V42, 22V44,  
 23R2, 23R7, 23R8, 23R9, 23R9, 23R22,  
 23V8, 23V15, 23V19, 23V30, 23V39, 24R5,  
 24R30, 24R37, 24R38, 24V3, 24V6, 24V12,  
 24V18, 24V19, 24V21, 24V24, 24V26,  
 24V31, 24V35, 24V36, 24V38  
 ärti 21V4, 21V5, 21V5, 21V6, 21V7, 21V7,  
 21V8, 21V9, 21V10, 21V11, 21V15  
 ärtüki 21R6  
 ärür 21R16, 21V17, 22R14, 22R15, 22R31,  
 22R37, 22V7, 22V13, 22V13, 22V20,  
 22V23, 22V24, 22V34, 22V37, 22V42,  
 23R3, 23R9, 23R9, 23R10, 23R19, 23V20,  
 23V43, 23V44, 24R2, 24R14, 24R17,  
 24R20, 24R27, 24R36, 24R38, 24R39,  
 24R43, 24R45, 24R47, 24V1, 24V2, 24V4,  
 24V4, 24V6, 24V7, 24V11, 24V12, 24V14,  
 24V21, 24V24, 24V25, 24V27, 24V29,  
 24V30, 24V32, 24V37, 24V41

## ärt-

「過ぎる」「越える」「おわる」「謝する」「滅する」「経る」  
ärdtäci 21V16

## äsängü

enčgü äsängü 「平安」  
enčgülüg äsängü-lüg 24R23  
enčgüsüz äsängüsüz 24R24

## äšid-

「開く」  
äšidmāk 23R23, 23V41, 23V44

## ät'öz

「體」「身」 23V20  
ät'öz-läri 22R5  
ät'öz-larta 24R44  
ätöz-tä 24R12

## ävriI-

「轉ずる」  
ävriItäci 22V20, 22V23, 22V34  
ävriIür 23R47, 23V26, 24V34

## ävriš

sav ävriš-i 「轉變」 21R15

## äv

「家」  
äv-tä 23V43  
äv-tin 23V45

## äzüg

「偽り」 22R7  
äzüg igid 「虚偽」  
äzüg-in igit-in 23R48

## B

## ba-

「繫ぐ」「縛る」  
bap 24R43

## bačaq

「近住」「齋」 22V4, 22V6

## bay

「繫」「縛」  
bay-qa 22V14

## bayrayu

bayrayu simtay-lar 「傲逸」 23R6, 23R8

## bayrayur-

「傲ずる」  
bayrayurmaq-iy 23R12

## bar

「有る」 23R48, 23V2, 23V20, 24R2, 24V24  
bar-qa 23R47

## barča

「すべて」「皆」「一切」 24V44

## barinča

「あるほどに」「すべて」  
qayu bar-in-ča 「所有ゆる」 23R20

## basa

「次に」「更に」 23R21

## baštinqi

「初めの」「最初の」「上の」 22V0

## baxši

「師」 21V8, 21V10  
baxši-niŋ 24R5

## bälgü

「相」 bälgü 22R5  
bälgü-läri 22R17  
bälgülüg 22R21  
bälgü-si 22R3, 22R16, 22R44

## beš

「五」 22R39, 24V26  
beš tutyaq yükmäk-tä 「五取蘊において」  
23R32

## bešinč

「第五」 23R18

## bil-

- 「知る」「擇する」「了ずる」「識る」  
bilgäli 23R14  
bilip 22R26  
bilmiş 21R1, 22R31, 22R38
- bilgä  
「賢者」「智者」「賢い」  
bilgä bilig 「智慧」「慧」「智」 21V2, 21V5,  
21V6, 21V7, 21V9, 21V17, 22V39, 22V41,  
24R15, 24R18
- bilig  
「識」 22V40, 22V41, 24R16, 24R18  
bilig-kä 21V2, 21V5, 21V6, 21V7  
bilig-lig 21V9, 21V17
- biligsiz  
「無知」「無智」 23V17, 24R15, 24R41  
biligsiz-niñ 24R7
- biltür-  
「示す」「教える」  
biltürmiş 21R1
- bir  
「一」「同じ」 21R10, 22V3, 23V0, 24R13  
bir tāk 「同一」「同じく」 22V25, 23V9  
bir-i-si 22R41
- birägü  
「(いくつかあるもののうちの) 一つ」  
birägü-si 22R42
- birgärü  
「共に」「俱に」「同じく」 22R27, 22V40,  
22V41
- birlä  
「…と」「…と俱に」 21R10, 22R27, 22V25,  
22V26, 22V40, 22V41, 23V9, 24R7, 24R21,  
24R28, 24R46  
birlä samaz 「相違釋」 21R16
- birläki  
「俱にある」「并する」 22V36
- bışmaq  
öñi bışmaq tuyum 「異熟生」 24R14
- bışrun-  
「修する」  
bışrun-dači-lar-niñ 24R1
- bodul-  
「染まる」  
bodulmiş-ča 24V17
- bodultur-  
「染まらせる」「染ぜさせる」  
bodulturur 24V9  
botuldurtači yapşınturdači 「染著」 24V4
- bol-  
「…と爲る」「…が成ずる」  
bol-dači 21R2  
bol-yuluq-suz 24R23  
bol-madın 21V4  
bol-mamış-ı 24V43  
bol-maq 22R44, 23R8, 23R8, 24R18  
bol-maq-ı 22V28  
bol-maq-ın 21R7, 24R33  
bol-maq-ıntın 22R3, 22R16  
bol-masar 21R6  
bol-matın 21V6, 21V8, 21V10  
bol-maz 21V16, 22V27, 24R4, 24R21,  
24R28  
bol-mış 22R2, 22R4, 23R13, 23V2, 23V3,  
24R45, 24R47, 24V1, 24V6, 24V11, 24V30  
bol-sar 23V6, 23V24, 24R46  
bolur 21R11, 21R12, 21R14, 21R14, 21R15,  
21R15, 21R15, 21R15, 21R17, 21R17,  
21V4, 21V5, 21V5, 21V6, 21V7, 21V7,  
21V8, 21V9, 21V10, 21V11, 21V18, 22R8,  
22R9, 22R12, 22R30, 22R36, 22R43, 22V4,  
22V16, 22V30, 23R6, 23R14, 23R46, 23V4,  
23V33, 24R11, 24R11, 24R12, 24R13,  
24R16, 24R40, 24V2
- boltur-  
「爲す」  
bolturmadači 24R31
- boş  
「自由」 23R8, 24V39



## bölük

「品」「部」「分」「支」 22V4

bölük-in 22V3, 22V3

bölük-lärdäki 24V27

bölük-läriğ 22V27

## bu

「これ」「この」 21R1, 21R13, 21V2, 21V3,  
21V11, 22V16, 22V20, 22V24, 22V24,  
22V25, 22V26, 22V34, 23V4, 23V20, 24V2

## buda

「佛」 < Skt. *buddha* 21R2

## butiγ ~ budiγ

「枝」

budiγ-i 24V43

## bul-

「得る」「獲る」

tanuqla- bul- 「證得する」

tanuqladum buldum 23R36

tanuqlamaduq bulmaduq 23V28, 23R35

buldum 23V35

bulmaduq 23V34

## bular

「これら」 21R15, 21R17, 24R46

bular-niğ 22R4, 22R16, 22R29, 22R36

## bultur-

「得させる」「獲させる」

bulturmaq 24V40

## burxan

「佛」 21V8

## bürit-

「觸れる」

büridmiš-čä 24V16

büritmämäk 22R27

## büt-

「成ずる」「完成する」

büdmäz 24R3

büdär 24R7, 24R18

## č

## ča

ča saqiz 「漆」 24V5, 24V16

## čin

< Chin. 眞

čin kertü 「眞實」「實」 23R41, 23R48

činkertü 「眞實」 21R4, 21R4

## ču-

ba- ču- 「緊縛する」

bap čup 24R43

## čuy

bay čuy 「緊縛」

bay-qa čuy-qa 22V14

## čxšapt (čaxšapt)

「戒」 22V2

čxšapt 23R23, 23V40, 23V44

čxšapt-liγ 23R11

## D

## divip

< Skt. *dvīpa* 「洲」

divip-lar-ta 22V16

## dyan

< Skt. *dhyāna* 「定」「靜慮」「等至」「等引」

「三摩地」「修」 22V18, 22V19, 22V21,

22V22, 22V22, 22V25, 22V34

dyan-lar 22V23, 23V31

dyan-ta 22V24, 24R1

## dyanasanvar

「靜慮律儀」 22V19

## E

## enčgü

enčgü äsängü 「平安」

enčgülüg äsängülüg 24R23

enčgüsüz äsängüsüz 24R24

eyin

「随う」「順ずる」 22V9, 22V19, 22V23,  
22V34

eyin-ki

「随っている」

eyinki nomlar 「随法」 22R20, 22R23, 22R36

G

girant

< Skt. *grantha* 「文」 23R14

I

igid

üzüg igid 「虚偽」

üzüg-in igit-in 23R49

iišläš-

「要する」「要ず」

iiš-läšür 22V27

iki

「二」 23V4

ikigü

「二」(集合)「兩方」「俱」

ikigü-ni 24R21, 24R28

ikinti

「第二」 23R16, 23V0, 23V5, 23V8

inčä

「このように」 24R27, 24V21

inčip

「而して」「而かも」「即ち」「則ち」「當に」

「然るに」 22R3, 22R4, 22R15, 22V9, 22V24,

23V10, 23V12, 23V25, 24R22, 24R30, 24V13,

24V21

iš

「用」「作用」

arquči iš 「媒嫁事」

arquči iš-in 22R28

K

karik

< Skt. *kārikā* 「本頌」「頌」

karik-ta 22R24

kä

(與格表示接尾辭)

kä vibakti (~vibakdi) 「與格」 21R17, 21V1,

21V3, 21V3, 21V7, 21V11, 21V12

käč-

「渡る」

käčmämäk 22R26

käd

「甚だしい」 24V36

käntü

「自ら」 24R20, 24R34

käntü öz-i 「自ら」「自己」 23R3 23V1

käntü öz-iniñ 23V8, 23V15

käntü öz-iniñ-tä 23V12

käntü öz-üm 「己自身」 23R25, 23R26,

23R28, 23R30, 23R36, 23R39, 23R42,

23V47

käntü öz-ümnüñ 23V12,

käntü öz-ümnüñi 23V10, 23V16

kärgäk

「必要」「必要である」 22R31, 22R38, 22V17,

22V18, 22V29, 23V39, 24R12

ken

「後に」「當に」 2R1, 22V29, 23R21

kenki

「後にある」「後のもの」 22R14, 24R5

kertü

čün kertü 「眞實」 23R41, 23R48

ketär-

「除く」「除斷」

öñi ketär-「除く」öñi kedärmiš 22V16, 22V17,

22V28, 24R12

## kim

「誰」「誰か」 21R1, 23R27, 23R30, 23R33,  
23R37, 23R43, 23V2, 23V6, 23V11, 23V35,  
23V49, 24V40

kim-kä 21V15

kim-lär 22R10, 22R19, 22R38, 22V2

## kkir (kir)

「染」「垢」 21R8, 21R8, 21R9, 21R9, 21R9

## kirlig ~ kkirlig

「染」「染汚」「不淨」

kirlig 24R37

kkir-lig 24R35

## kkir-siz (kirsiz)

「不染」「不染汚」「無垢」 21R8, 21R11, 21V2,  
21V9, 21V14

## kiši

「人」

kiši-lär-niŋ 23V43, 23V45

## kizlä-

ördmämäk kizlämämäk 「不覆滅」 22R29

## kiz-läglig

「密」 22R32

## ködit-

örü ködit- 「高舉ならしめる」

örü köditür 23V6

## ködittür- ~ kötidür- ~ kötidür-

örü ködittür- 「高舉ならしめる」

örü ködittürtäçi 23V11

örü ködit-türtäçig 23V35

örü kötidürtäçig 23R31

örü kötidür{tä}çig 23R34

örü kötidürtäçi 23R5, 23R27, 23R37,  
23R44, 23V49

örü ködit-türüp 23V2

kötidürtäçig (23V22)

## ködrülmış

see kötrülmış

## kök

kök qalıq 「虚空」 21R3

## köñül

「心」「意」「情」 23V5

köñül-in 24V39

köñül-tä 23R12

köñül-täki 24V21, 24V22

köñül-üg 23R4, 23R27, 23R31, 23R33,  
23R37, 23R43, 23V2, 23V6, 23V11, 23V17,  
23V35, 23V49

## körk

「形」「像」

öñ körk küç köşün 「色力」 23R23, 23V40,  
23V42

## körüm

「見」 24R9

bar at'öz körüm 「有身見」 23V20

körüm qoşuy 「見結」 24R41

körüm-lär 24R17

## köşün

küç köşün 「力」 23R23, 23V40, 23V42

## kötrülmış ~ ködrülmış

atı ködrülmış 「世尊」 24V1

atı kötrülmış-niŋ 21V13

## küç

「力」

küç köşün 「力」 23R23, 23V40, 23V42

## kümüš

「銀」

kümüš-üg 22R32

## küni

küni qoşuy 「嫉結」 24R42

## kürägürmāk

「橋ずること」 23R12

## küvänc

「慢」 23R2, 23R6, 23R16, 23R21, 23R28,  
23R46, 23R47, 23V4, 23V7

- küvānč qošuy 「慢結」 23R2, 23R13, 23R46, 24R40  
 artuq küvānč 「過慢」 23R16, 23R31, 23V8, 23V14  
 küvānč-tā arduq küvānč 「慢過慢」 23R17, 23V14, 23V18  
 mǎn (~mn) küvānč 「我慢」 23R17, 23R34, 23V19, 23V23, 23V26  
 mn küvānč-kä 23V25  
 umunč küvānč 「増上慢」 23R18, 23R38, 23V36  
 asīra küvānč 「卑慢」 23R18, 23R41, 23V49  
 tārs küvānč 「邪慢」 23R19, 23R44  
 küvānč-lār 23R15  
 küvānč-lār-niḡ 23R45
- küzätindür- (küzädindür-)  
 「護させる」  
 küzätindürür 24V10
- L
- liry  
 (所有・所屬表示接尾辭) 21V2  
 liry samaz 「有財釋」 21R16, 21V1, 21V1, 21V4, 21V7, 21V11, 21V12
- M
- maxabut  
 < Skt. *mahā-bhūta* 「大種」  
 maxabut-lar-niḡ 22V28
- mitir-a gupte  
 『入阿毘達磨論』の注釋書の著者の名  
 < Skt. *Mitra-gupta* ?  
 21V3, 21V11
- mn (mǎn)  
 「われ」 mǎn 23R29; mn 21V15, 23R25, 23R26, 23R30, 23R33, 23R40, 23R43, 23V19, 23V20, 23V21, 23V24, 23V48  
 mn küvānč 「我慢」 23R17, 23R34, 23V19, 23V22, 23V24, 23V26
- māniḡ-lig  
 「我所」 23R33, 23V19
- muna  
 「すなわち」「今」 21R15, 21R17, 21V11
- munčulayu  
 munī munčulayu 「このように」 22V11, 23R45, 23V25, 24R14
- munday  
 see muntay
- mundata  
 see muntata
- munday (muntay)  
 「このように」「このような」  
 munday-in 21V11
- munta ~ munda  
 「ここで」「ここに」「この中に」(bu の位格形)  
 munta 22V5, 22V14, 23R15, 23R21, 24R22  
 munda 21V3, 21V14, 22V13, 23R19, 24R19, 24R30, 24V33
- munī  
 「これを」(bu の對格形)  
 munī üzä 「これによって」 21V13  
 munī munčulayu 「このように」 22V11, 23R45, 23V25, 24R14
- muntata ~ mundata  
 「ここで」  
 muntata ulatī 「此等」 23V34, 23V46  
 munda-ta ulatī-lar-niḡ 24R32  
 munta-ta ulatī-lar-niḡ 23V32
- munuḡ  
 「これの」(bu の屬格形) 22R3, 22R15  
 munuḡ uyur-inta 「これに由って」 23R27, 23R30, 23R33, 23R36, 23R43
- mün  
 mün qaday 「過失」 21V4, 21V7, 24R3
- muḡa  
 「これに」(bu の與格形) 23V21

- N
- nä  
「何」  
nä ymä 「ともあれ」「なにも」「さて」「と  
ころで」 22V32
- näčä  
「いかに (…しても)」 23V5, 23V24  
näčä näčä 「幾許々々」「如如」 24V16, 24V17
- nägü  
「何」 21R11, 21R12, 21R15, 21R17, 21V4,  
21V7, 24R19  
nägü-ni 21V14
- nägülük  
「如何にして」  
nägülük 21R5
- näj  
「決して (…でない)」 21V16, 23V26, 24V22
- nätäg  
「どうして」「いかに」 21R8, 21R11, 21V5,  
21V8
- nätägin  
「いかにして」「どうして」  
nädägin 23V1
- nikaylïy  
「部に屬する (もの)」  
nikay-lïy-lar 24V20  
nikay-lïy-lar-nïj 24V20
- nirvan  
< Skt. *nirvāṇa* 涅槃 23V32
- nizvani  
< Sogd. *nyzβ'ny* 「煩惱」 21R9  
nizvani-lar 21R8  
nizvani-lar-ïy 21R10  
nizvani-larnïj 21R9
- nïj
- (屬格表示接尾辭)  
nïj samaz 「依士釋」 21R16
- nom  
「法」「教」「達磨」 23V34  
alqu yrlytsiz nomlar 「一切無記法」 24R38  
alqu yrlytsiz nomlarïy 24R36  
ämgängtä nom biligä bilig 「苦法智」 22V39  
eyinki nomlar 「隨法」 22R24, 24R37  
eyinki nom-lariy 22R21  
örtüglüg yrlytsiz nomlar 「有覆無記法」 24R37  
örtügsüz yrlytsiz nomlar 「無覆無記法」 24R39  
nom-i 23R48, 23V2  
nom-lar 22R23, 22R30  
nom-lar-i 23V44, 23V46  
nom-lariy 22R20, 23V34  
nomlu-y-lar-ta 23V47  
nom-ta 24R20, 24R33  
yrlytsiz kirlig nom 「無記染汚法」  
yrlytsiz kirlig nomlar 24R37  
yrlytsiz kkirlig nomlarïy 24R35
- O
- ol  
「彼」「其れ」「…である」(繫辭) 21R1,  
21R2, 21R2, 21R3, 21R3, 21R4, 21R4,  
21R4, 21R4, 21R5, 21R5, 21R5, 21R7,  
21R8, 21R8, 21R9, 21R10, 21R10, 21R11,  
21R12, 21R13, 21R13, 21R14, 21R14,  
21R15, 21R16, 21R17, 21V1, 21V3, 21V13,  
22R2, 22R4, 22R5, 22R18, 22R22, 22R25,  
22V1, 22V9, 22V10, 22V14, 22V15, 22V26,  
22V39, 23R1, 23R6, 23R13, 23R15, 23R20,  
23R28, 23R31, 23R33, 23R34, 23R38,  
23R41, 23R44, 23V4, 23V10, 23V13,  
23V13, 23V17, 23V18, 23V19, 23V19,  
23V21, 23V22, 23V36, 23V49, 24R16,  
24R25, 24R32, 24R34, 24V7, 24V19,  
24V25, 24V31
- ol(○) 22V37  
ol(⊔) 23V9
- olar  
「彼ら」  
olar-nïj 22V8

on

「十」 22R11, 24R14

oq

(強調の小詞 cf. ök) 21R5, 21R5, 22R3,  
22R16, 22R17, 22V12, 22V16, 22V20,  
22V30, 22V37, 23R1, 23V26, 24V18ančulayu oq 「そのような」「そのように」  
(如是) 21V16, 24V17, 24V44

bu oq inčip 「これ即ち」 22V24

ol oq 「即ち」 24R16, 24V7, 24V19, 24V25,  
24V31

oq samaz 「持業釋」 21R16

orun

「處」「地」「座」「床」 22V43, 23R22, 22V38,  
23V40, 23V42

orun-in 24R13

orun-lar-in-ta 22V10

orun-lar-qa 22V37

orun-larta 24V34

orun-ta 23V26, 24V38

orun-taqi 22R32

orun-uγ 22V10

ot

「草」

ot-nuγ 22R34

otuz

altı otuz 「二十六」 24R16, 24R17

oxšad- ~ oxšat-

「似せる」

oxšadip yaγyar- 「比類」 23R3

yaγyarmaq oxšatmaq 「比類」 23V27

oxšadiγ

「類」「同分」

uγuš oxšadiγ 「類」 23R4

Ö

öč-

「滅する」

öčtäci 22V26

öčmāk

「滅」

öčmāk-lig 22V25

ödgür- (ötgür-)

「了達する」「達する」

ödgürü 21V18

ödsüz

ödsüz aš 「非時食」 22R9

ödün- (ötün-)

「奉る」「供する」

ödün-mädük 22R34

ödür-

qayvīlanturmadin ödürmätin 「対向(?)す  
ることなしに」 24V40

ögrätin- ~ ögrädin-

「習う」「學ぶ」

ögrätinülük 22R37, 22V10

ögrädingülük 22R31, 22V9

tüšütlanmäduk ögrädinmäduk 「無智學」  
24R26

tüšütlanmiš ögrädinmiš 「智學」 24R25

ök

(強調の小詞 cf. oq) 21V17, 22R33, 22R26,  
22V14, 23R48, 24R9, 24R13, 24V17, 24V44

ölür-

「殺す」

ölürmāk 24V37

ölüt

「殺生」

ölüt-tä 22R6

öñ

「色」 22V20, 22V23, 22V24, 22V34, 22V36,  
23R22, 23V40, 23V42

öñsüz 24R13

öñsüz-lär 23V32

öñlüg 22V19, 22V20, 22V31, 24R11

öñdün

「前」「先」「東」 22V32, 23R1, 24R8

öñdüнки

「前にある(もの)」「先にある(もの)」22V37,  
22R13, 24R9, 24R16

öñi

「異」 22R3, 22R16, 22R44, 22V28, 24V33

öñi üdrül- 「離する」「離れる」

öñi üdrülmäk 21V17

öñi üdrülgülük 22R5, 22R6, 22R8

öñi üdrülmış 22R11, 22R38

öñi üdrülgäli 22R11, 22R39

öñi üdrültür- 「離す」

öñi üdrültürtäci 22V6, 22V7

öñi ketär- 「除く」

öñi ketärmış 22V16, 22V17

öñi kedärmış 22V28, 24R12

öñi bişmaq 「異熟」 24R14

öñi öñi-sin 「各々を」 24V34

-ta/-tä öñi 「…よりほか」

qoşuyta öñi 「結よりほか」 24V23

örd- (ört-)

「覆う」

ört- kizlä- 「覆滅する」

ördmämäk kizlämämäk 「不覆滅」 22R29

ört-

「起こす」

örttäciğ 23V17

örtüg

「覆い」

örtüglüg 「有覆」 24R8, 24R15, 24R37

örtügsüz 「無覆」 24R10, 24R17, 24R38

ördüg-lär-tin tidiy-lar-tün 「有覆障」 21V18

örü

örü kötitürtäci 「高擧ならしめるもの」 23R5,  
23R27, 23R31, 23R34, 23R37, 23R43, 23V2,  
23V6, 23V11, 23V22, 23V35, 23V49

ötrü

「則ち」「即ち」 24R46

övkä

「瞋」「恚」 24V27, 24V31, 24V44

övkä qoşuy 「恚結」 24R40, 24V26, 24V30,  
24V32

öz

「自ら」 24R10, 24R44

öz orun 「自所」「自處」

öz orun-ta 23V26

käntü öz-i 「自身」「自己」 23R3, 23V1

käntü öz-iniğ 23V8, 23V15

käntü öz-iniğ-tä 23V12

käntü öz-üm 「己自身」 23R25, 23R26, 23R29,  
23R30, 23R36, 23R40, 23R42, 23V47

käntü öz-ümnüğ 23V13

käntü öz-ümnüği 23V10, 23V16

öz-li adin-li 「自と他」

öz-li adin-li-niğ 23R10

P

padak

< Skt. *pādaka* 「句」

patak-lar-iy 21R13, 21R17

patak-lar-ni 21V1, 21V2

Q

qač

「いくら」 21R14, 21R15

qaday

mün qaday 「過失」 21V4, 21V7

mün qaday-lar 24R3

qalınču

「残り」「殘餘」 22R35

qaliq

kök qaliq 「虚空」

kök qaliq-ta 21R3

qaltı

「謂わく」「(猶) …の如し」 21V15, 22R24,  
22R38, 22V19, 22V21, 22V32, 22V33,  
22V36, 22V42, 22V44, 24R14, 24R40,  
24V3, 24V5, 24V15, 24V26, 24V29, 24V41,  
24V42

qamay

「衆」「すべての」

qamay-i 24R10

qamaq-ta yeg 「最勝」 21R7

qaqıy

「怒り」 24V34

qaqıy-ta 24V33

qaraqyu

「闇」「冥」

qaraqyuγ 21V17

qarsi

「違」「相違」 21R16

qat-

「混ぜる、加える」

qat- qavšur- 「混ぜ合わせる、混合する」

qatır qavšur-ur 24R46

qatıryan

「槐（えんじゅ）」

qatıryan uruy 「苦種」

qatıryan uruy-in 24V29

qatıryan-nıñ uruy-i 24V42

qavır-a-sinča

「暑して」 23R19

qavramaq

qavramaq qoşuy 「取結」 24R41

qavšur-

「合する」

qavšuru 21R17

qat- qavšur- 「混ぜ合わせる、混合する」

qatır qavšur-ur 24R46

qayu

「何」 21R4

qayu barınča 「所有る」 23R20

qayu bar bolmiş 「所有る」 23V2

qayu söz-lämiš 「所説」 24R5

qayu söz-lägüçi 「所説するところの」 24R16

qayu ärsär 「すなわち」 24V6, 24V18, 24V24, 24V31

qayu-ta 22V34, 22V39, 24R45

qayvılantur-

qayvılanturmadın ödürmätin 「対向(?) することなしに」 24V39

qaz-

「掘る」

qazmamaq 22R34

qıl-

「…する」「爲す」「作る」「造る」

qıldı 21R7

qıltı 21R6

qıljalı 21R6

qılmadaçı 24R24, 24R26

qılmamaq 22R28

qılmaz-lar 23V25

qılınč

「業」「行」 22V30

qıltur-

「爲させる」

qılturyalı 24V28

qına-

「責める」

qınamaq 24V36

qızγutla-

「罰する」

qızγut-lamaq 24V36

qltı (qaltı)

「謂わく」「(猶) …の如し」「若し」 23R2, 23R6, 23R8, 23R21, 23R22, 23V23, 23V34

qodı

「下」

qodı asıra 「下劣」「劣」 23R40, 23V4, 23V15, 23V47

qoluğa

「芽」



- qoluğa-si 24V42
- qoşuy  
「結」 「繫」 24R39, 24R45, 24R47, 24V1, 24V6,  
24V18, 24V22, 24V25, 24V31  
küvānč qoşuy 「慢結」 23R2, 23R14, 23R46,  
24R41  
az qoşuy 「食結」 「愛結」 24R40, 24V3, 24V7,  
24V25  
azniñ qoşuy-i 24V22  
övkä qoşuy 「恚結」 24R40, 24V26, 24V30,  
24V32  
biligsiz qoşuy 「無明結」 24R41  
körüm qoşuy 「見結」 24R41  
qavramaq qoşuy 「取結」 24R42  
sezig qoşuy 「疑結」 24R42  
küni qoşuy 「嫉結」 24R42  
saran qoşuy 「慳結」 24R42  
qoşuy-ta 24V23
- qurıldur-  
qurıldur- ämgäd- 「損害する」  
qurılduryalı ämgädgäli 24V35  
qurıldurmaq ämgädmakig 24V27
- qut  
「福」 「果」  
qudı 23V31  
qutın-ta 23R35, 23V29
- S
- sadya-  
see satya-
- sakridagam  
< Skt. *sakṛd-āgami* 「一來」 23V31
- samaz  
< Skt. *samāsa* 「語釋」 「合成語」 21R15, 21R17  
oq samaz 「持業釋」 21R5, 21R16  
liy samaz 「有財釋」 21R13, 21R16, 21V1,  
21V1, 21V3, 21V4, 21V7, 21V11, 21V12  
niñ samaz 「依士釋」 21R16  
birlä samaz 「相違釋」 21R16  
qarsı samaz 「隣近釋」 21R16  
türlüg samaz 「帶數釋」 21R16
- samaz-lar 21R16
- san  
「數」  
san-lari 24R8
- san-  
「屬する」  
tudulmaq sanmaq 「繫屬」 22V13
- sanıl-  
「屬する」  
sanılmaq 22V13
- sanvar  
< Skt. *samṃvara* 「律儀」  
baçaq sanvar 「近住律儀」 22V4  
baçaq sanvar-i 22V6  
toyin sanvar-i 「苾芻律儀」 22R2  
şmnanč sanvar-i 「苾芻尼律儀」 22R4  
şarmiranč sanvar-i 「勤策女律儀」 22R18  
şarmire sanvar-i 「勤策律儀」 22R13  
şikşamani sanvar-i 「正學律儀」 22R22  
upasanč sanvar-i 「優婆夷戒」 22V1  
toyinniñ şarmirenin sanvar-i 「苾芻と勤策の  
律儀」 22V5  
upası sanvar-i 「優婆塞戒」 22V7  
upası sanva[r-i] 22R43
- saqız  
ča saqız 「漆」 24V5  
ča saqız-i 24V16
- saran  
saran qoşuy 「慳結」 24R42
- sarvadyan  
< Skt. *sarva-jñāna* 「一切智」 21V17
- satya- ~ sadya-  
「凌ぐ」  
sadya- yumur- 「凌箴する」  
sadyamiş yumurmiş 23R7  
satyamaq 23R9
- sadyat-  
sadyat- yumurd- 「凌箴させる」

- sadyatur yumurdur 23R12, 23V3
- sav  
「言」「語」「文」「説」「事」21R15, 21V14,  
22V26, 24V33  
savda 24R19  
sav-ta 21R12, 22R7, 23V30, 23V39, 24R31  
sav-lar 23R24
- säkiz  
「八」22V4, 22V4, 24R10, 24R18  
yüz säkiz「百八」24R6, 24R19
- säkizägü  
「八」（集合）22V11
- säv-  
「愛する」「好む」  
sävmäk 24V35
- sävig  
「愛」  
säviglig sävigsiz「愛と非愛」24R29, 24R32
- sävtür-  
「愛させる」「楽しませる」  
sävtürdäci 24V28
- selü  
< Chin. 靜慮  
selu dyan「靜慮（定）」  
selu dyan-lar 22V23, 23V31
- sezig  
「疑い」「疑問」  
sezig qoşuy「疑結」24R42
- sikantile ~ sikandile  
塞建陀羅（塞建地羅）と漢字表記される『入  
阿毘達磨論』の著者の名。< Skt. Skandhila ?  
sikantile 21V4, 21V10, 21V11  
sikandile 21V6, 21V8
- sımtay ~ sımday  
「放逸」23R8, 23R9  
bayrayu sımtay「傲逸」23R8  
bayrayu sımtay-lar 23R6, 23R8
- sımday-sız「無放逸」22V3
- sortapan ~ sordapan  
< Skt. *srota-āpanna*「預流」  
sordapan 23R35  
sortapan 23V29  
sordapan-lar 23V23
- sözlä-  
「説く」「言う」「曰く」「語る」  
söz-lämiş 22R24, 22V32, 24R4, 24R8,  
(24R9), 24R20, 24R27, 24R34, 24V24,  
24V41  
s[ö]z-lamiş 23R5  
söz-lamiş-i 24R5  
söz-lämiş-in 24V20  
sözläsär 24R1  
söz-läyür-lär 24V20
- söz-lägüci  
「所説の」「所言の」「説くもの」24R16
- suv  
「水」22R26
- süçig  
「甘い」「甘く」24V43
- ş
- şadipandi  
< Skt. *śaṅdhapaṇḍa* 黃門  
şadi-pandi-ta 22V18
- şarmiranč  
< Toch.B \**şarmirāñca*  
şarmiranč sanvar-ī cf. Skt. *śrāmaṇerī-*  
*saṃvara*「勤策女律儀」22R18
- şarmire  
< Toch.B *şarmire* (~*şanmire*) < Skt. *śrāmaṇera*  
「勤策」  
şarmire sanvar-ī「勤策律儀」22R12  
şarmire-niñ sanvar-ī 22V5
- şikşamani  
< Skt. *śikṣamānā*「正學」22R22

şikšamani-lar-qa 22R30, 22R37

šlok

< Skt. *śloka* 「頌、偈」

šlok-nī 21V3, 21V11

šmnanč

< Sogd. *šmn'nc* = Skt. *śrāmaṇerī* 「尼」 22R4

šmnanč sanvar-ī 「苾芻尼律儀」 22R4

## T

tanuqla-

「證する」

tanuqladīm 23R36

tanuqlamaduq 23R35, 23V28

taplay

「許可」「忍」「宗(派)」

āmgäktä nom bilgä bilig taplay 「苦法智忍」  
22V40

taryar-

「斷つ」「滅する」「破る」「除く」

taryardači 21V17

taryarmaq-līy 21R12

taryarmiš 21R10

taryarmiš-līy 21V13

taryaru tükädmiš-kä 「断ち已えたことに」  
23V23

tadīy-līy

「甘い」 24V43

tart-

「曳く」「引く」「招く」「抜く」

tartīp 24R31

tartmamaq 22R33

taš

「外」「他」 24V39

tatyan-

「味わう」

tatyanū-luq 22V15, 22V37, 22V43

tavar

「財」

äd tavar 「財」 23R22, 23V40, 23V42

tavranmaq

「精進」「行」 22V29

tayanūluq

「所依」 23R47

tayaq

「依」「所依」 22V22

tayaq-in 24V12

tayaqlīy

「(所) 依もてる」「依るもの」 24V13

tayaq-līy-in 23R5, 23R47, 23V20, 23V21,  
23V22

täg

「…の如し」「…の如く」 21V6, 21V9, 21V10,  
22V32, 23R1, 23R7, 23V9, 24R8, 24R9,  
24V5, 24V17, 24V29, 24V43

täg-

「至る」「詣でる」「得る」「被る」

tägmäk 22V14

tägmäz-känki tayaq dyan 「未至定」 22V22

tägi

「…まで」

tägi-ki-si 24V37

tägimlig

「應に」「所應」

tägimlig-lär-tin 22R12, 22R40

täginčäkyä

「…ほどに」「…のみに」「…齊しい」

täginčä-ky-ä-sinjä 21R7

tägin-

「及ぶ」「受ける」

täginip 22R10, 22R38

täginmämäk 22R35

täginmiš 22R19, 22V2

tägirmi

tolun tägirmi 「圓滿」 21R13

täk

「單に」「ただ」 21R3, 22V25, 24R2

täñ

「等しく」「等しい」 21R8, 22V26, 23R26,  
23R30, 23V13

täñ-lär-tä 23R26, 23R28, 23V5

täñlä-

「比量する」「量る」「比べる」

täñläp 23R10

tärs

「邪」

tärs küväñč 「邪慢」 23R19, 23R44

tärsğärüsinčä yorımaq 「邪行」 22V8

te-

「いう」「…という」

tedi 21R2, 21R5, 21R8, 21R9, 21R11,  
21R13, 21V15

tegli 21R3, 21R4

tegu 21V6, 21V10

teğüci 「という」 21R10, 21R12, 21V2, 21V14,  
23V30, 23V39, 24R19, 24R31, 24V33

temädin 21R9

temäk 21R15, 21R17, 21V6, 21V10

temäk-niñ 23R1

temiš 23R20

temiš-i 22V21, 22V31, 22V36, 22V42,  
23V30, 23V38, 24R30, 24V12, 24V19,  
24V35, 24V38

tesär 21R15, 21R17, 21V14, 23V1

teti 21R11, 21V1

tedtür- ~ tettür-

「いわせる」

tedtürüp 23V17

tettürüp 23V48

tedür- ~ tetür-

「いわせる」

tedürüp 23R26, 23R29, 23R30, 23V35,  
23V10

tetürüp 23R36

tetürtäçig 23R40, 23V13

tedürt-

「謂わせる」

tedürtüp 23R25

tep

「…と」 (te-の副動詞形) 21R1, 21R2, 21R2,  
21R5, 21R8, 21R10, 21R10, 21R11, 21R12,  
21R13, 21V15, 22R3, 22R4, 22R8, 22R10,  
22R13, 22R19, 22R22, 22R30, 22R31,  
22R37, 22R38, 22R44, 22V2, 22V4, 22V10,  
22V11, 22V12, 22V14, 22V15, 22V18,  
22V21, 22V21, 22V31, 22V35, 22V35,  
22V39, 22V42, 22V44, 23R1, 23R6, 23R7,  
23R14, 23R15, 23R19, 23R21, 23R28,  
23R32, 23R33, 23R34, 23R38, 23R41,  
23R44, 23R46, 23V1, 23V4, 23V7, 23V14,  
23V18, 23V19, 23V21, 23V23, 23V30,  
23V34, 23V36, 23V38, 24R2, 24R19,  
24R22, 24R23, 24R24, 24R26, 24R27,  
24R28, 24R30, 24R31, 24V35, 24R36,  
24V38, 24R43, 24R45, 24R47, 24V1, 24V2,  
24V6, 24V7, 24V11, 24V11, 24V14, 24V19,  
24V21, 24V23, 24V26, 24V31, 24V32

teptesär

= te-p te-sär 21V15, 24R20

tepteti

= te-p te-di 21R9

tet-

「いう」「述べる」

tetir 22V33, 22R43, 23R1, 24R8, 24R9,  
24R10

tetä 22V9

tetmiš 22V10

tidtür- ~ tittür-

yertür- tittür- 「厭捨せしめる」

yertürüp tidtürüp 24V39

tilgän

「輪」 21R11, 21R11, 21R12, 21R12

tilgän-ï 21R3, 21V17

tilgän-indä 21V16

- tilgän-lig 21R11, 21V9, 21V14  
tilgän-lig-kä 21V2
- tid-  
「妨げる」「障る」「遮る」「礙する」  
tidar 24V19
- tidîy ~ titîy  
「障礙」「障」「妨」22R1, 22R10, 22R15, 22R41,  
22R42  
tidîy-lar-tin 21V18  
titîy 22V3
- tidintur-  
「禁じさせる」「制せさせる」  
tidinturur 24V10
- tiltay  
「因」「縁」22V28  
tilday-î 24V44  
tiltay-înta 23R24
- tinly  
「有情」24V33, 24V34, 24V38
- tinlylar  
「衆生」「群生」「有情」  
tinly-lar-qa 21R1, 21V8, 21V10, 21V12  
tinly-larta 24V27
- tînsîz  
「非情」24V34
- tjri  
= täjri 「天」21R6, 21R7, 21R8, 21R12, 21V4,  
21V6, 21V8, 21V8, 21V9, 21V10, 21V10,  
21V12, 21V12  
tjri-kä 21V2  
tjri-si 21V8
- tolun  
tolun tägirmi 「圓滿」21R12
- tolu  
「満ちている」  
tolu tükäl 「圓滿」  
tolu-sîn tükäl-in 21V13
- tonla-  
「鞭打つ」  
tonlamaq 24V36
- toqî-  
「織る」「打つ」  
toqî-maq 24V35
- toquz  
「九」22V0, 24R39, 24V2
- tört  
「四」22R40, 22V2, 22V22, 24R11, 24R15
- törtägü  
「四」(集合)  
törtägü-nüj 22R7  
törtägü-si 22R13, 22R42
- törtünç  
「第四」23R17
- toyîn  
toyîn sanvar-î 「苾芻律儀」22R2  
toyînnîj şarmirenîj sanvar-î 「苾芻と勤策の  
律儀」22V5
- töz  
「性」「相」「體」「(根本)」22R1, 22R8, 22R14,  
22R17, 22R20, 22R23, 22R30, 22R40,  
22R42, 22V22, 22V30, 23R22, 23R39,  
23V37  
töz-î 24R7  
töz-lüg 24V4, 24V29, 24V38  
töz-lügüg 23R5  
töz-ün 22V5
- tuda  
ada tuda 「災い」 ada tuday 24R48
- tuduy  
sîmdaysîz üç titîy tuduy bölük 「無放逸三遮品」  
22V3
- tudul-  
see tutul-

tuy-

「生まれる」「生ずる」「発生する」「起こる」

tuydaçi 22V26

tuydaçi-si 22V40, 22V41

tuydaçi-sin 22V29

tuymaq 22V25

tuymaq-siz 21R4, 22V41

tuymiş 23V5, 23V5

tuyup 24R3

tuyum

「生」24R14

tuyum-larda 24R44

tuyur-

「生む」「起こす」「生じさせる」「發する」

tuyuryali 24R34, 24R48

tur-

「起こる」「生じる」「往する」「在る」「(正に) …している」「止める」

turdaçi 23V43

turup 22R25

turyur-

「起こす」「住させる」

turyurup 23R12

turyurur 24R43

tusu

asıy-siz tusu-suz 「不饒益」24V29, 24V38

tut-

「取る」「得る」「持つ」「約す」「就く」「將つ」

tuta 21R7, 24V12

tutmamaq 22R32

tutmaq 23R23, 23V41, 23V44

tutul- ~ tudul-

「撮せられる」「繋がれる」

tudulmaq 22V12

tudulmaq-nij 22V31

tudulmaz 22V39, 22V42

tudulur 22V21, 22V31, 23V30

tutulmaz 22V35

tutulmiş-i 22V30

tutulur 22V12

tutyaq

「取」「執受」「受」23R32

tuži

< Chin. 「屠兒」22V44

tükäd- (tükät-)

「おえる」

tükädmiş-kä 23V23

tükäl

「完全」「一切」「圓滿」「具」「成」22V27, 24R11

tükäl bilgä bilig 「一切智」21V2, 21V5, 21V6, 21V6, 21V9, 21V17

tükäl-in 21V13

tükäl-lig 21R1, 23V24

tünä-

「泊まる」

tünämamak 22R28

tünämiş 22R35

tüp

tört töz tüp selu dyanlar 「四根本靜慮定」22V23

töz tüp qilinc 「根本業」22V30

türlüg

「種の」21R1, 21R15, 21R16, 21R16, 22R11, 22R19, 22R20, 22R23, 22R23, 22R36, 22R39, 22V2, 23R15, 23R45, 23V4, 24R2, 24R3, 24R6, 24R39, 24V2

tüş

「果」「報」

tüş-i 24V44

tüş-lärig 24R32

tüş-lärin 24R30

tüşütlän-

tüşütlän- ögrätin- 「慣習化する」

tüşütlänmädük ögrädinmädük 「無智學」24R26

tüştülänmiş ögrädinmiş 「智學」 24R25

tüü

「毛」

tüüg 22R33

tüü-sin 22R33

tüz

täj tüz 「等」「平等」 21R8, 22V26

tüzün

「聖」「聖者、聖人」(複数形)

tüzün yol 「聖道」 22V36, 23V32

## U

u-

-ğali/-ğäli u- 「…できる」「能く…す」「…し  
得る」

umaz 24R29

uyur 24R34, 24R48

uĉ

「先、端」

uĉin 22R34

uĉuzla-

yeniklä- uĉuzla- 「輕侮する」

yenikläyü uĉuzlayu 23R10

uğur

「場合」「機會」「條件」「行相」「門」 23R43

uğur-in 23R20, 24V15

uğur-inta 22R44, 23R27, 23R30, 23R33,  
23R37

uğuş

「界」「類」 22V42, 23R4, 23R22

uğuş-lar 24V14

uğuş-lardaqı 24V3, 24V11

uğuş-lar-taqı 23R2

uğuş-larqa 24V13

uğuş-larta 24R10

uğuş-ta 22V12, 22V20, 22V31, 23R39,  
23V38, 24R11, 24R13

uğuş-taqı 22V19

uladı ~ ulatı

「及び」「更に」「乃至」, 「等」 (-ta/-tä に後  
續)

uladı 23V29, 23V34

ulatı 21R13, 22R6, 22R7, 22R20, 22R35,  
22V40, 23R11, 23R24, 23R35, 23V30,  
23V39, 23V46, 24R22, 24R29, 24V12,  
24V13

uladı-lar 23V38

ulatı-lar 22V24, 23R39

uladı-lar-niğ 22R9

ulatı-lar-niğ 23V33, 24R32

ulatı-larığ 22V18, 23V41

ulun

「莖」

ulun-i 24V42

umuy

「救い」

um{u}ğ-luy 22V8

umunĉ

umunĉ küvänĉ 「増上慢」 23R18, 23R38, 23V36

upasanĉ

< Sogd. 'wp's'nch = Skt. *upāsikā* 「近事女」

upasanĉ sanvar-i 「近事女律儀」「優婆夷戒」  
22V1

upası

< Sogd. 'wp's'y = Skt. *upāsaka* 「近事」「優婆  
塞」

upası sanvar-i 「優婆塞戒」 22V7

upası sanva[r-i] 22R43

uq-

「理解する」「了ずる」

uqmış 21R1

uqup 22R26

uqid- ~ uqit-

「顯す」「立てる」「表す」「申す」「辯ずる」

uqidğali 24R21, 24R22, 24R28, 24R29

uqidğalir 24V23

uqidip 22R21

uqidmaz 22V24

- uqıdur 21V14, 21V14, 23R21, 24V15  
 uqıtur 21V13  
 uqıtmiş 23V7
- uqul-  
 「理解される」「了ぜられる」「顯される」  
 「立てられる」  
 uqulmaz 21V12  
 uqulup 21V12
- uri  
 「男子」  
 uri-lar 22R27  
 uri-larıy 22R27
- uruy  
 「種 (子)」  
 qatıryan uruy 「苦種」  
 qatıryan uruy-in 24V29  
 qatıryan-nıy uruy-i 24V42
- utrakavrap  
 < Skt. *uttara-kaurava* 「北俱盧洲 (人)」  
 utrakavrap-ıy 22V17
- uz  
 「妙」「勝妙」「善」 24R4
- uzan-  
 「巧妙になす」  
 uzanmaq 23R24, 23V41, 24R12
- Ü
- üç  
 「三」 21R1, 22V3, 22V16, 22V42, 23R2, 24R2,  
 24R3, 24R5, 24R12, 24V3, 24V11, 24V13,  
 24V13
- üçägü  
 「三」 (集合)  
 üçägü-nıy 22R6
- üçün  
 「故」 21R1, 21R2, 21R5, 21R9, 21R10, 21V12,  
 22R1, 22R5, 22R17, 22V1, 22V25, 22V26,  
 22V38, 23R13, 23V3, 23V7, 24R3, 24R21,  
 24R27, 24R28, 24R34, 24R44, 24R47,  
 24R48, 24V5, 24V7, 24V10, 24V19, 24V22,  
 24V23, 24V25, 24V30, 24V31, 24V4
- üçünç  
 「第三」 23R16
- üdrül-  
 öñi üdrül- 「離れる」「遠離する」  
 öñi üdrülgäli 22R11, 22R39  
 öñi üdrülgülük 22R6, 22R7, 22R8  
 öñi üdrülmäk 21V18  
 öñi üdrülmış 22R11, 22R39
- üdrültür-  
 öñi üdrültür- 「離れさせる」  
 üdrültürdäçi 22R1  
 öñi üdrültürdäçi 22V7  
 öñi üdrültürtäçi 22V6
- üküş  
 「多」 23R23, 23R38, 23V37, 23V41, 23V44
- ülgülä-  
 「量る」  
 ülgüläp 23R10
- ülüş  
 「分」 21R7, 24R20, 24R33  
 ülüş-inçä 23R38, 23V37
- ün-  
 「出る」  
 ünmiş 23V45
- üsdä- ~ üstä-  
 「加える」  
 üsdämiş 23V1
- üz-  
 「断つ」  
 üzmämäk 22R34
- üzä  
 「において」「によって」「で以て」「故に」  
 21R5, 21R6, 21R13, 21R14, 21V1, 21V1,  
 21V3, 21V4, 21V4, 21V6, 21V7, 21V7,



21V10, 21V11, 21V13, 21V13, 21V14,  
21V14, 21V18, 22R22, 23R14, 23R39,  
23V2, 23V7, 23V17, 23V27, 23V38, 24R7,  
24R18, 24V15, 24V33, 24V41

## üzäki

「の上にある」「における」「の前にある」  
22R1, 22R1, 22R8, 22R10, 22R14, 22R15,  
22R42, 22R42, 23R4

üz-äki-sin 22V29

üz-aki-sintä 22R40

üz-äki-sintin 22R41

## V

## vibakdi ~ vibakti

< Skt. *vibhakti* 「名詞の格」 21R13, 21R13,  
21R15

kä vibakdi 「與格」 21V1, 21V1, 21V3, 21V11,  
21V12

kä vibakdi 「與格」 21V7

kä vibakti 「與格」 21V3

vibakdi-lar 21R14

## vinaya

< Skt. *vinaya* 「毘奈耶」 22R24

## Y

## yalaŋuz

「獨り」「唯」 22R26

## yalaŋuzin

「獨りで」 22R25

## yalpıryaq

「葉」

yalpıryaq-ı 24V43

## yaltrıq

「明」

yaltrıq-lar-ta 21V16

## yanalayu

「及び」 21R4

## yanıyar-

「比べる」

yanıyarmaq oxşatmaq 「比類」 23V27

## yanıluq

「誤り」「妄り」

yanıluq-inča 23R49

## yapşin-

「粘着する」「付着する」

yapşinıyuluq 22V15, 22V38, 22V43

## yapşındur- ~ yapşintur-

「粘着させる」「執させる」

yapşındurur 24V18

botuldurtaçı yapşinturdaçı 「染著」 24V4

yapşinturur 24V9

## yapış-

「粘着する」

yapışmıš-ı 24V16

## yaraşı

「適切な」「相應しい」「所應」「可く」「巧  
い」 23V6

## yaru

yaru yelim 「融膠」 24V5, 24V15

## yarud- ~ yaru-

「照らす」

yarudyalı 21V18

yarudtaçı 21R6, 21V16

## yaruq

「光」「耀」「明」 21V16

## yaş

「若い」

yaş ot 「青草」 22R34

## yazuq

「罪」 22R8, 22R10, 22R14, 22R15

yazuq-in 22R29

yazuq-tin 22R2

## yänä

「又」「亦」「復」 22V17, 23R15, 23R25, 23R28,

- 23R32, 23R34, 23R38, 23R41, 23V28,  
24R23, 24R29, 24V14, 24V17, 24V44  
yänä-läyü 22V4
- yeel  
「風」  
yeel yoriq 「風行」 22V6
- yeg  
「勝れた」 21R7, 21V17, 23R25, 23R29,  
23V12 , 23V16  
yeg ayaşuluq 「尊高」 21R6  
yeg adruq 「殊勝」 23R35, 23V29, 23V33,  
23V43, 23V45, 23V46  
yeg-lär-tä 23R29, 23R39, 23V38
- yelim  
yaru yelim ça saqiz 「融膠漆」 24V5  
yaru yelim-i ça saqiz-i 24V15
- yeniklä-  
y(e)niklä- uçuzla- 「輕侮する」  
y(e)nikläyü uçuzlayu 23R10
- yer  
「地」  
yerig 22R34
- yertinçü  
「世間」「世」「世界」  
yertinçü-lüg 21V17
- yertür-  
yertür- tittür- 「厭捨せしめる」  
yertürüp tidtürüp 24V39
- yeti  
「七」 22V27, 23R15, 23R45
- yetinç  
「第七」 23R19
- ygrmi  
「二十」 23V0
- yindäm ~ yintäm  
yindäm ~ yintäm...(oq/ök) 「唯」
- yindäm 24R13  
yintäm 21V17, 22V11, 22V16, 22V20,  
22V29, 22V34, 23V26
- yid ~ yit  
「香」「薰」  
yid yuq 「習氣」「薰習」  
yiti yuqi 21R10
- yiyindur-  
「撮せさせる」  
yiyindurur 24V10
- yiltiz  
「根」 24R33, 24R36  
yiltiz-lar-niñ 24R6  
yiltiz-niñ 24R4
- ymä (yämä)  
ymä (ök) 「また」「…も」 21R5, 21R6, 21R12,  
21V16, 21V18, 22R26, 22R33, 22R36,  
22V14, 22V32, 22V35, 22V39, 23V24,  
23R26, 23R29, 23R48, 23V6, 23V11, 23V37,  
24R9, 24R23, 24R24, 24R24, 24R25, 24R25,  
24R26, 24R29, 24R35, 24R45, 24R48, 24V6,  
24V14, 24V17, 24V19, 24V25, 24V31,  
24V44
- ymäter  
= ymä ter「…ともいう」(訂正文) 22R5, 22R18,  
22R33, 22R43, 22V1, 22V5, 22V11, 22V13,  
22V26, 23V1, 23V21
- yol  
「道」「趣」「路」 21R11, 22R25, 22V36, 23V32  
yol-inta 22V30
- yoq  
「無い」 23R48
- yori-  
「行く」  
yor(i)maq-tin 22V8  
yoridaçi 21R3  
yori-mamaq 22R25
- yoriq

「行」

yorıq-ı 23V9  
 yorıq-ta 23R11  
 yorıq-tın 22V6

yov-

ar- yov- 「欺く」  
 ara yova 23R9

yöläşrüg ~ yöläşürüg

「喩え」  
 yöläşrüg 24V14  
 yöläşürüg 21R2, 21R5, 21R8, 24V41

yör-

「釋す」  
 yörä 24R20, 24R34, 24V41  
 yörär 21V1  
 yörgülük 21R5, 21R13, 21V1, 21V3,  
 21V13  
 yörmäk 21R17  
 yörmäsär 21V4, 21V7  
 yörmiş 23R1  
 yörsär 21V11

yörüg

「義」「理」 21R1, 21R10, 21R12, 21R13,  
 22V14, 22V15, 24R24, 24R31  
 yörüg-i 22V32, 23R1, 24R4  
 yörügindäki-čä 24R1  
 yörüg-lärkä 21R1  
 yörüp 21V4, 21V7  
 tep yörüg'ol = tep yörüg ol 「という義がある  
 /義である」 24R19, 24R23, 24R27

yrly-sız

「無記」 24R6, 24R9, 24R15, 24R17, 24R19,  
 24R30, 24R33, 24R35, 24R36, 24R36,  
 24R37, 24R37, 24R38, 24R38  
 yrly-sız-ı 24R10

yrliqa-

「説く」「告げる」「言う」(動作主は常に「佛」)  
 yrliqamış 22V9, 24V2

yumdaru

「總じて」 23R45

yumu-

「蔑する」  
 yumumaq 23R9, 23R10

yumur-

sadyamiş yumurmiş-ı 「凌箴」 23R7

yumurt-

sadyat- yumurd- 「凌箴させる」  
 sadyatur yumurdur 23R13, 23V3

yuq

yüd yuq 「習氣」「薰習」  
 yiti yuqi 21R10

yurt

äd tavar orun yurt 「財位」 23R22, 23V40,  
 23V42

yügäri

「現前」「現に」「現の」 23V25

yükmäk

「蘊」「聚」  
 beş tutyaq yükmäk 「五取蘊」  
 beş tutyaq yükmäk-tä 23R32

yükün-

「禮する」「作禮する」  
 yükünmiş 21V4, 21V5, 21V6, 21V8, 21V8,  
 21V10  
 yükünmiş-I 21V12  
 yükünür 21V15, 21V15, 21V15  
 yükünür-mn 21V2, 21V5, 21V9

yüz

「百」 24R6, 24R18

**The Uighur version of the commentary on *Abhidharmaparakaraṇa-śāstra*  
preserved at the Museum of Ethnography in Stockholm**

Masahiro SHŌGAITO,

Mutsumi SUGAHARA, Noriko OHSAKI, Abdurishid YAKUP, Setsu FUJISHIRO

This paper on the four fragments of the Uighur version of the commentary on the *Abhidharmaparakaraṇa-śāstra* is based on the study of late Prof. Dr. Masahiro Shōgaito. He had almost completed the transcription, Japanese translation, identification with the text in the original Chinese version, and some notes on these four fragments from the Hedin collection, preserved at the Museum of Ethnography in Stockholm. As introduced by Kudara (1980), these four fragments are numbered from 1935.52.21 to 1935.52.24, with their appearances being attributed to three types (one with 21, one with 22 and 23, and the third with 24).

In this paper, we publish in Japanese the translation and transcription, and the commentaries on each fragment, building upon the study of Prof. Dr. Shōgaito; we also attach a glossary of these four fragments. The English version of this paper is to be published soon.

